

松山市 地域振興構想



令和7年3月
松山市

目次

第1章 はじめに

1 松山市地域振興構想とは -----	2
1-1 構想策定の背景・目的 -----	2
1-2 『坂の上の雲』のまちづくりとは -----	2
1-3 『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想とは -----	2
1-4 構想の構成 -----	4
1-5 構想の進行管理 -----	6
2 構想の策定に向けた市民参加の取組 -----	7

第2章 地域振興の理念(全体構想)

1 時代の潮流と市民の意向 -----	10
1-1 少子高齢化の加速や地域コミュニティの縮小の加速 -----	10
1-2 松山市市民意識調査からみる市民の意向 -----	13
2 各地域住民や若者が考える理想の地域 -----	15
2-1 地域ヒアリングでみられた賑わいの考え方・意向 -----	15
2-2 地区住民アンケート結果からみた地域が賑わう姿 -----	16
2-3 高校生ワークショップでの地域の課題や取組のアイデア -----	17
3 地域振興の理念 -----	18
3-1 市内全地域に共通する地域振興の理念 -----	18
3-2 地域振興の理念に基づく行動指針 -----	20

第3章 地域別構想

1 忽那諸島・風早・三津浜・久谷 -----	22
1-1 忽那諸島 -----	22
1-2 風早 -----	26
1-3 三津浜 -----	30
1-4 久谷 -----	34
2 松山城周辺・道後温泉・松山総合公園 -----	39

資料編

『坂の上の雲』のまちづくりを中心とした主な取組 -----	42
各ゾーンの特色 -----	44
松山市地域振興構想策定懇話会 -----	46
まちづくりワークショップ(地域住民ヒアリング) -----	48
地域のまちづくりに関する地区住民アンケート -----	49
地域の魅力発信！ワークショップ -----	58
用語集 -----	60

松山市地域振興構想

第1章 はじめに

1 松山市地域振興構想とは

1-1 構想策定の背景・目的

松山市は、司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』に描かれたメッセージを基本理念とした「小説を活かしたまちづくり」に取り組んでいます。

また、平成12年3月から『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想を掲げ、松山城周辺のセンターゾーン及び6つのサブセンターゾーンを設定し、これらの各地域(ゾーン)の特色をいかした回遊性の高いまちづくりを推進してきました。

特に、「忽那(くつな)諸島」「風早(かざはや)(北条)」「三津浜」では、地域振興の構想や計画をそれぞれ策定し、行政と地域が協働して重点的な施策を実施してきたほか、「松山市地域におけるまちづくり基本構想」の基本理念である『私たちのまちは私たちの手で』に基づき、まちづくり協議会などを中心とした住民主体のまちづくりを推進してきました。

こうした取組の開始から一定期間が経過したことから、昨今の社会情勢の変化や、地域まちづくりのニーズの多様化等を踏まえ、各地域の特性や課題を見つめなおし、今後のまちづくりの方向性を示した「松山市地域振興構想」を策定しました。

今後は、この構想に基づき、各地域が一体となって更なる地域の賑わいと持続的な発展をめざしていきます。

1-2 『坂の上の雲』のまちづくりとは

小説『坂の上の雲』の3人の主人公(秋山好古・秋山真之・正岡子規)が抱いた高い志とひたむきな努力、夢や希望を現代に生きる私たちへのメッセージとして、まちづくりに取り入れたのが、『坂の上の雲』のまちづくりです。

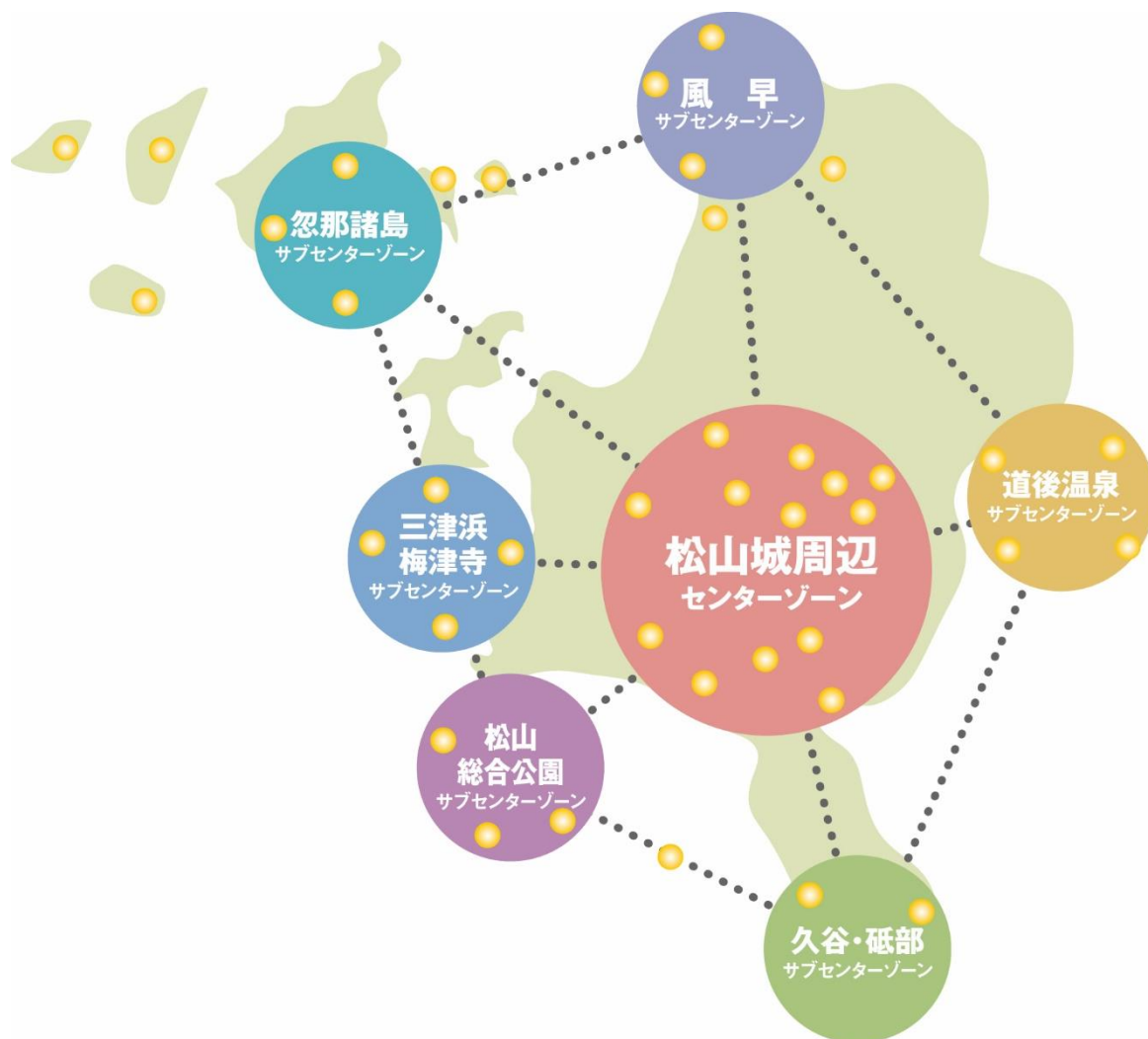
単に新しいものをつくるだけでなく、地域で古くから培ってきた既存の地域資源を最大限活用し、3人の主人公たちのように夢や希望を持ちながら、官民一体となって「物語」が感じられるまちをめざす、それが全国ではじめて取り組む「小説を活かしたまちづくり」です。

1-3 『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想とは

松山市内には、小説『坂の上の雲』ゆかりの地をはじめ、地域固有の資源が数多くあり、これらの地域資源をひとつの作品に例え、市内全域を「屋根のない博物館」と捉え、回遊性の高い物語のあるまちをめざすのが、『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想です。

具体的には、松山城周辺をセンターゾーンとし、その周りに6つのサブセンターゾーンを設定し、それぞれのゾーンで地域資源などの魅力を住民が主体となって磨き上げ、“松山らしさ”をいかしたまちづくりを進めています。

図表1 フィールドミュージアムのゾーン区分と特徴



センターゾーン	中心市街地。交通と観光の拠点で、坂の上の雲ミュージアムを中心に松山城、秋山兄弟生誕地、子規堂など、小説ゆかりの史跡・施設が多く存在します。
サブセンターゾーン	道後温泉、松山総合公園、三津浜・梅津寺、久谷・砥部、風早、忽那諸島の6つの地域を設定し、固有の地域資源をいかしたまちづくりを進めています。
● サテライト	小説ゆかりの地をはじめとした松山市内各所の地域資源で構成。センターゾーン、サブセンターゾーンを結ぶ役割を持ち、ネットワークと回遊性の機能を高めています。

また、図表1に掲げるゾーンを図表2のとおり分類し、第3章地域別構想(P21)では、前述した「忽那諸島」「風早」「三津浜」に「久谷」を加えた4地域について、これまでの取組を検証しつつ、それぞれ10年後にめざすまちの姿や、実現に向けた地域振興の方針を示します。

図表2 フィールドミュージアム構想のゾーンの位置付けについて

ゾーン	位置付け
●松山城周辺	まちづくりの中核施設である坂の上の雲ミュージアムのほか、主人公たちゆかりの地や史跡なども数多く残されているフィールドミュージアムの中心地として、様々な都市機能及び地域資源の集積機能を有するとともに、各サブセンターゾーンへの回遊を促進する役割を担う。
●道後温泉 ●松山総合公園	市内外から人を集めるほか、市民の憩いの場としての機能を有する施設を拠点に、市の魅力発信や他地域への回遊を促進するなど、地域振興の拠点としての役割を推進する。
●忽那諸島 ●風早 ●三津浜・梅津寺 ●久谷・砥部	地域資源や特色をいかした地域振興を住民が主体となって推進することで、魅力の向上、地域資源の磨き上げ、賑わい・活力を創出する。

※松山市地域振興構想では、図表2のゾーンのうち、「三津浜・梅津寺」は、前身の三津浜地区活性化計画で対象としていた「三津浜地区」を中心に、周囲も広く含めたゾーンとして「三津浜」と表現するほか、行政区域をまたがる「久谷・砥部」は、広域的なエリアとして、地域の概要や資源等を整理した上で、主に「久谷」を対象として、それぞれまちづくりの方向性を示します。

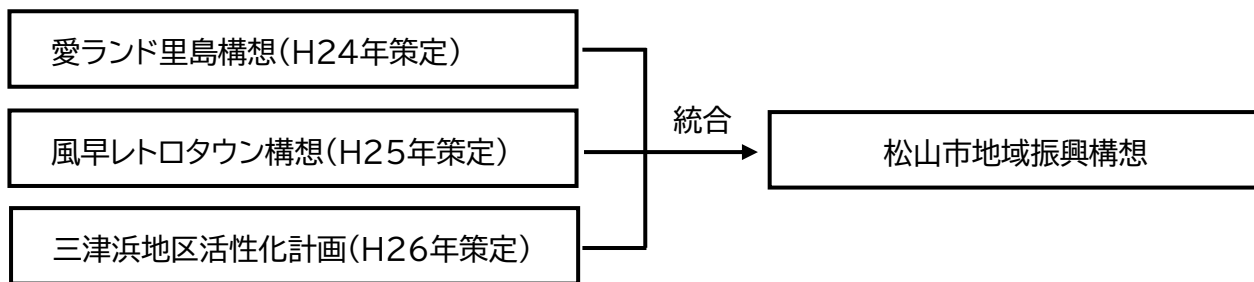
1-4 構想の構成

『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想の下、地域資源を活用して特色あるまちづくりを進めるために策定し、概ね10年とする推進期間を迎えた「愛ランド里島構想(対象:忽那諸島)」「風早レトロタウン構想(対象:風早)」「三津浜地区活性化計画(対象:三津浜地区)」を統合し、新たに「松山市地域振興構想」として策定します(図表3参照)。

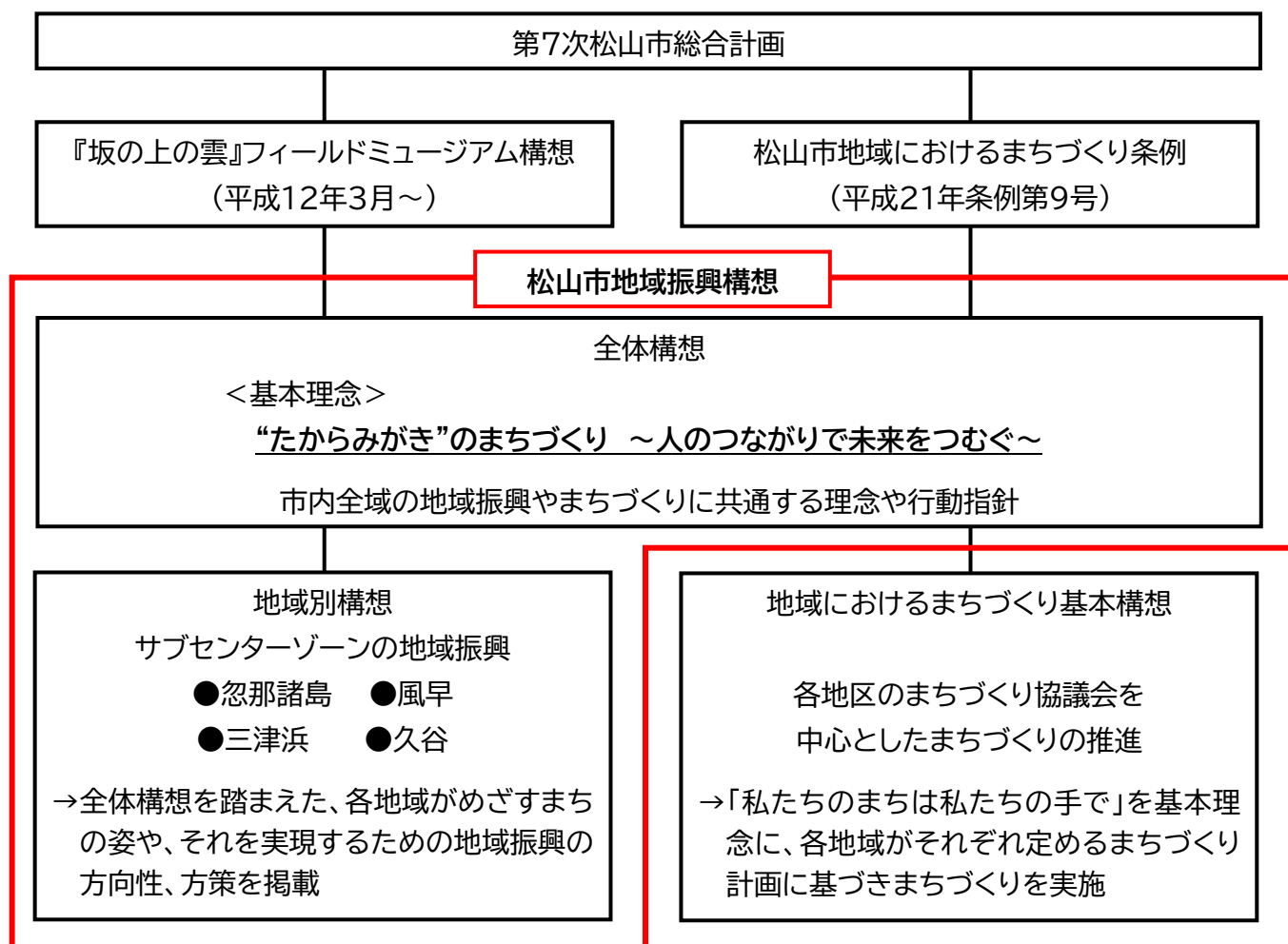
本構想を策定するに当たり、市の最上位計画である「第7次松山市総合計画」で示す将来都市像や政策・施策に加え、回遊性の高い物語のあるまちをめざす『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想及び地域と行政が協働したまちづくりの推進を目的とする松山市地域におけるまちづくり条例(平成21年条例第9号)との整合性をとります。

また、本構想は、市内全域の地域振興やまちづくりに共通する理念や行動指針を示す「全体構想」及び全体構想を踏まえ、各地域でのまちづくりの方向性や目標等を示した「地域別構想」で構成する本編と、本編を受けて地域振興を推進していくための取組を掲載する実施計画(別冊)で構成します(図表4・図表5参照)。

図表3 各ゾーンの構想等の統合について



図表4 構想の体系



図表5 本編と実施計画の役割と期間

本編 (本冊)	松山市の地域振興に向けて、市内全体のまちづくりに共通する考え方や、各地域でのまちづくりの方向性等を整理 計画期間:10年間(令和7(2025)年度～令和16(2034)年度)
実施計画 (別冊)	本編を受けて、地域振興を推進していくための、主要な取組等を整理 計画期間:3年間 ※ただし毎年度見直し(ローリング方式)を実施

1-5 構想の進行管理

忽那諸島・風早・三津浜・久谷の各地域が掲げる「めざすまちの姿」を達成するためには、地域と市が行う取組それぞれを整理して実行していく必要があります。

そこで、第3章地域別構想(P21)に位置付ける各地域の「今後のまちづくりの方向性」を踏まえ、今後3年間でを行う取組を整理した実施計画を4つの地域ごとに作成します。

この実施計画に位置付けた取組は、成果や課題を振り返ったうえで、翌年度以降につなげるなど、適切な進行管理を行います。

また、各地区のまちづくり協議会が集まり、活動紹介やまちづくり協議会の交流を行う「地域力パワーアップ大会」などの場を活用し、地域づくりの情報やノウハウの共有、まちづくり協議会同士の連携推進などにつなげていきます。

2 構想の策定に向けた市民参加の取組

本構想は、住民を主体としたまちづくりを展開し、地域の賑わいや活力を創出していくためのものであるため、地域住民へのヒアリングやアンケートはもちろん、市内の高校に通う生徒や公募市民へのワークショップなど声を聴く場を新たに創出しながら、各地域の魅力や課題、今後進めるべきまちづくりの方向性等について、様々な意見をいただきました。

図表6 構想策定に向けた市民参加の取組(意見の聴取)

松山市地域振興構想策定懇話会



[実施時期]令和5年9月～令和7年3月

[実施回数]計5回 [構成員数]12名

外部有識者をはじめ、地域の代表者、公募市民(大学生)などで構成する松山市地域振興構想策定懇話会を開催。地域の特性や課題をはじめ、今後地域で取り組んでいくべき事項など、松山市地域振興構想の策定に向けた意見をいただきました。

※詳細はP46～P47参照

まちづくりワークショップ (地域ヒアリング)



[実施時期]令和5年12月～令和6年2月

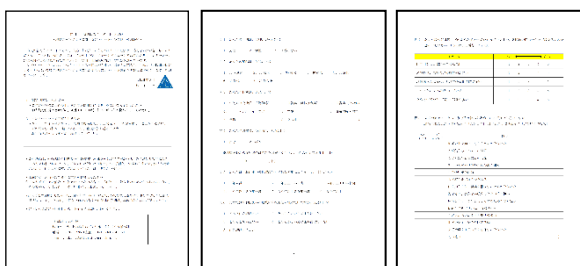
[実施回数]計5回 [延べ参加者数]計103名

忽那諸島・風早・三津浜・久谷の各地域で、地域住民を対象にワークショップを実施。地域の魅力や課題、地域が賑わうとはどういう状態か、今後地域で進めるべきまちづくりなどを住民同士でグループになって話し合っていました。

※忽那諸島は、興居島・中島で1回ずつ実施

※詳細はP15参照

地域のまちづくりに関する 地区住民アンケート



[実施時期]令和6年3月～4月

[有効回答数]731件(回収率:36.6%)

忽那諸島・風早・三津浜・久谷の各地域に在住の18歳以上の住民2,000人を対象にアンケート調査を実施。地域のイメージやこれまで行ってきた地域振興の取組に対する満足度、今後進めるべき取組や地域が賑わうとはどういう状態かなどの意見をいただきました。

※詳細はP16、P49～P57参照

高校生ワークショップ



[開催日]令和6年3月17日

[参加者数]37名

市内の高校に通う生徒を対象に、松山市が進める『坂の上の雲』のまちづくりについての講義や、坂の上の雲ミュージアムでのフィールドワークを実施。地域の課題やそれを解決するための取組、高校生として関わることなどのアイデアをいただきました。

※詳細はP17・第3章参照

地域の魅力発信！ワークショップ



[実施時期]令和6年8月～9月

[実施回数]2回 [延べ参加者数]42名

公募市民を対象に、「地域の魅力を発信し、特色あるまちづくりを周知するための方法の検討」をテーマにしたワークショップを実施。地域の魅力やまちづくりに関心を持ってもらうために必要な取組や、地域振興構想をまちづくりに活用してもらえような冊子とするための方法などを話し合っていました。

※詳細はP58～P59参照

今後のまちづくりの方向性ヒアリング

[実施時期]令和6年9月～10月

各地域が考えるまちづくりの要素をピックアップし、構想策定にいかしていくため、各地域の町内会等を対象にヒアリングを実施。これまで実施した地域ヒアリングや地区住民アンケートの結果などをもとに、めざすまちの姿やその実現に向けた方針、定性目標について聴き取りを行いました。

※詳細はP22～P37参照

松山市地域振興構想

第2章 地域振興の理念 (全体構想)

1 時代の潮流と市民の意向

1-1 少子高齢化の加速や地域コミュニティの縮小の加速

日本の少子高齢化は、団塊の世代及び団塊ジュニア世代の高齢化に加え、東京一極集中による地方からの若年層の流出と未婚化・晩婚化・晩産化によって、更に加速すると見込まれています。

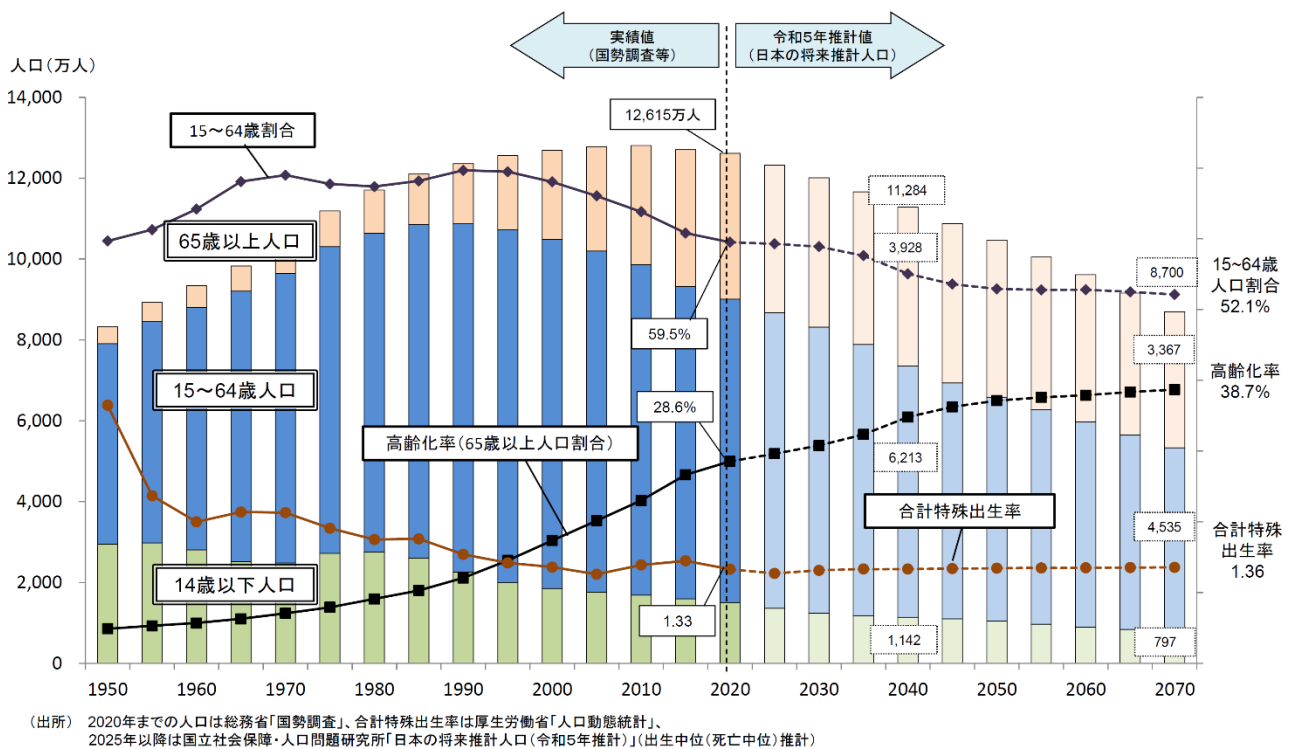
本市でも全国の地方都市と同様に、若い世代の転出超過が続いており、少子化の進行と合わせて、総人口に占める生産年齢人口の割合も減少しています。また、全国的に地域の行事等への参画意識や助け合いの意識が低くなるなど、コミュニティの希薄化も進んでおり、地域活動等での担い手不足が懸念されています。

このような中、近年自然災害が激甚化・頻発化し、今後南海トラフ巨大地震の発生も危惧される中、広域的な災害が発生した場合の公助の限界が懸念されています。自助・共助を行える体制整備を進めるとともに、災害発生時に円滑な避難所運営などが行えるよう、日ごろから避難訓練を行うなど、地域全体で防災力を高める必要があります。

さらに、コロナ禍によって日常化したオンライン申請やウェブ会議等のデジタル技術は、地域コミュニティでも活用できるものであり、今後は、地域のまちづくり活動でもデジタル化への対応は欠かせません。

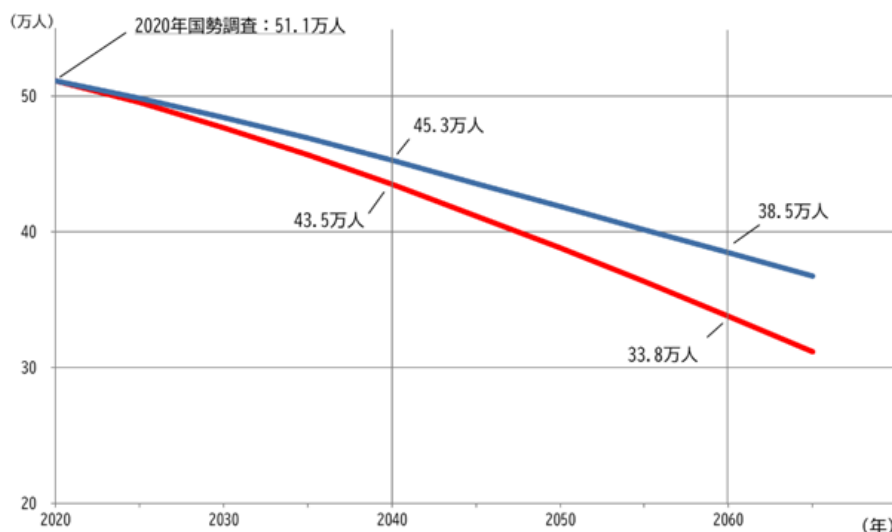
このように、地域に求められる役割が増加する一方で、地域のまちづくりを担う人材が不足することが懸念されることから、持続可能な地域コミュニティの形成を推進していくことが求められます。

図表7 日本の人口推移



出典:「令和6年版国土交通白書」(国土交通省)(<https://www.mlit.go.jp/statistics/file000004.html>)

図表8 松山市の人口の展望



(注) 人口の展望の推計値は、「地方版総合戦略の策定等に向けた人口動向分析・将来人口推計の手引き（令和6年6月版）」に基づき、基準値を2020年国勢調査51.1万人として松山市独自で推計しています。

赤色実線：以下の条件で算出した推計値（現状ベース）

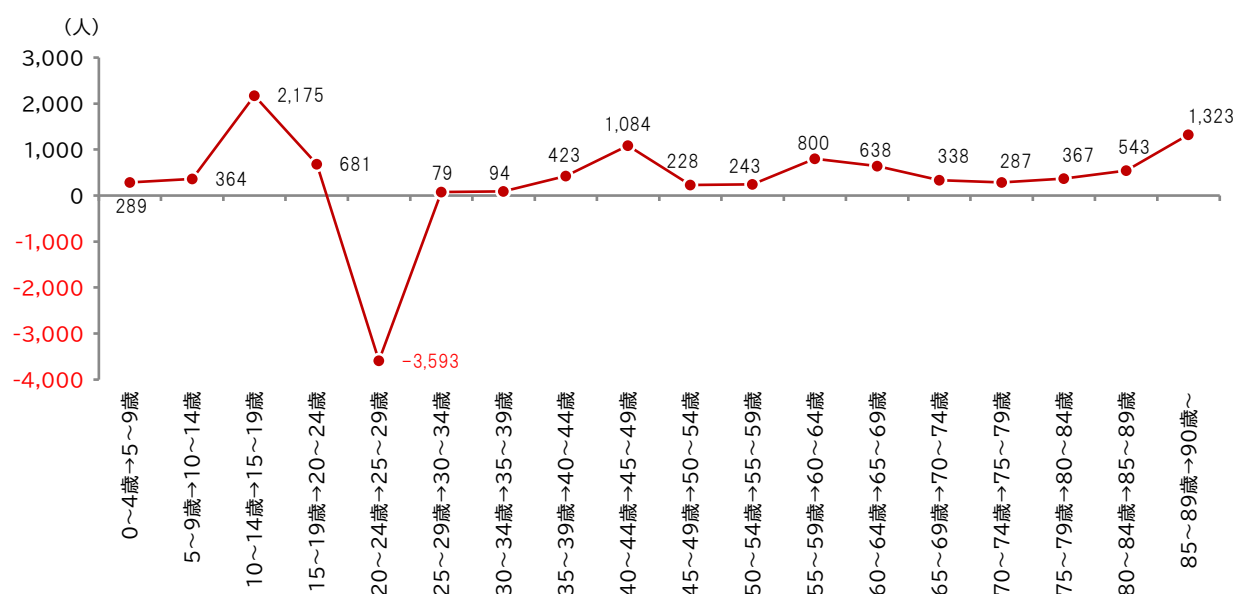
- 【 — 】 ・合計特殊出生率が「人口動態統計」（松山市保健所）の2018年から2022年の平均値
- ・純移動率が2021年10月1日時点と2023年10月1日時点の住民基本台帳登録者数から算出した値

青色実線：以下を見込んだ場合の推計値

- 【 — 】 ・合計特殊出生率が2060年に2.07、社会増減が2025年以降均衡

出典：第7次松山市総合計画前期基本計画

図表9 松山市の年齢階級別純移動数(2015年→2020年)



資料：「RESAS(地域経済分析システム)-人口の社会増減-」

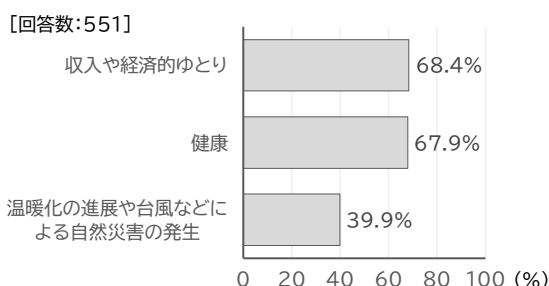
(<https://www.resas.go.jp/population-society/>)を加工して作成

※5歳階級ごとの5年間(2015年から2020年)での純移動数(転入者数から転出者数を引いたもの)を表しています。例えば、「20～24歳→25～29歳」では、「2015年に20～24歳」の年代の人口が、5年後の「2020年に25～29歳」となるまでに、3,593人転出超過(人口が流出している)となったことを示しています。

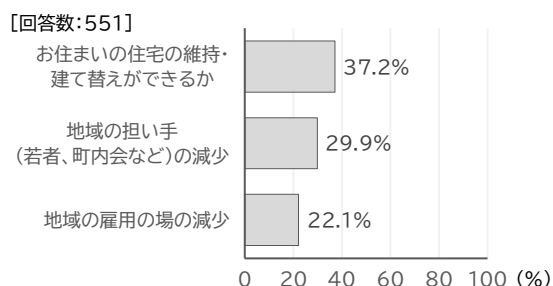
図表10 地域での暮らしや地域との付き合いの意識

将来の暮らしや、地域の生活環境に関して、収入や経済的なゆとりのほか、自然災害の発生や地域の担い手の減少に対しての不安が大きい

【将来の暮らしに対する不安なこと】



【地域における将来の生活環境に対する不安なこと】



※中核市(人口20万人以上の市)を集計

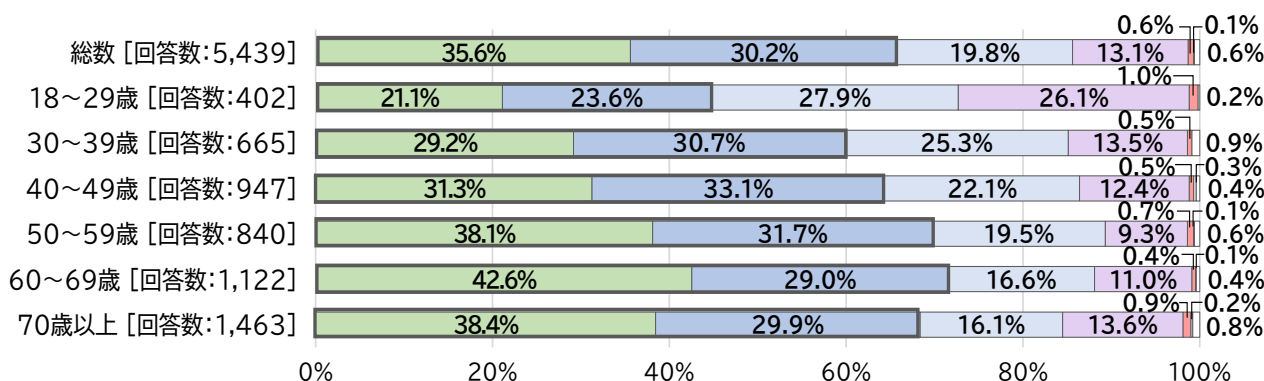
資料:「地域社会の暮らしに関する世論調査(令和2年10月調査)(内閣府)」
(<https://survey.gov-online.go.jp/PR02/r02-chiikishakai/2.html>)を加工して作成

全世代で、地域の行事等への参画意識や助け合いの意識が低くなっている

【望ましい地域での付き合いの程度】

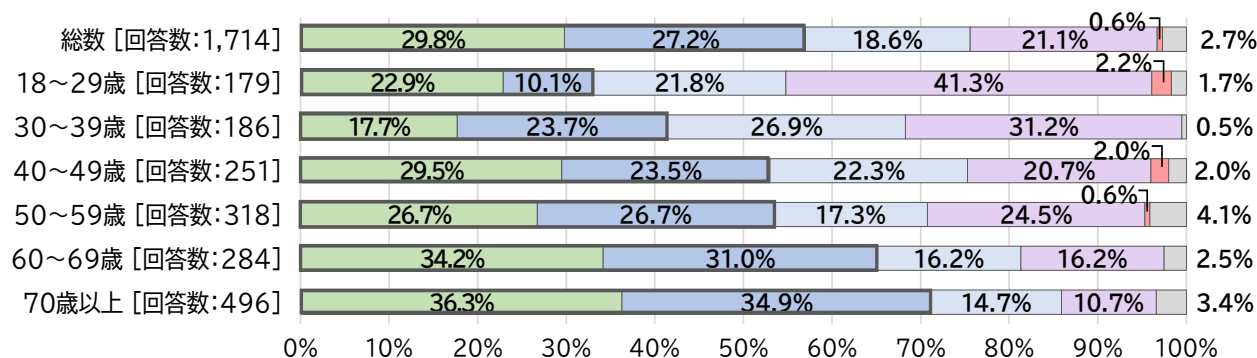
- 地域の行事等に参加したり困ったときに助け合う
- 地域の行事や会合に参加する程度の付き合い
- 世間話をする程度の付き合い
- 挨拶をする程度の付き合い
- 地域での付き合いは必要ない
- 無回答
- わからない

【平成31年2月調査】



資料:「社会意識に関する世論調査(平成31年2月調査)(内閣府)」
(<https://survey.gov-online.go.jp/h30/h30-shakai/zh/z08.html>)を加工して作成

【令和5年11月調査】



資料:「社会意識に関する世論調査(令和5年11月調査)(内閣府)」
(<https://survey.gov-online.go.jp/PR05/r05-shakai/2.html>)を加工して作成

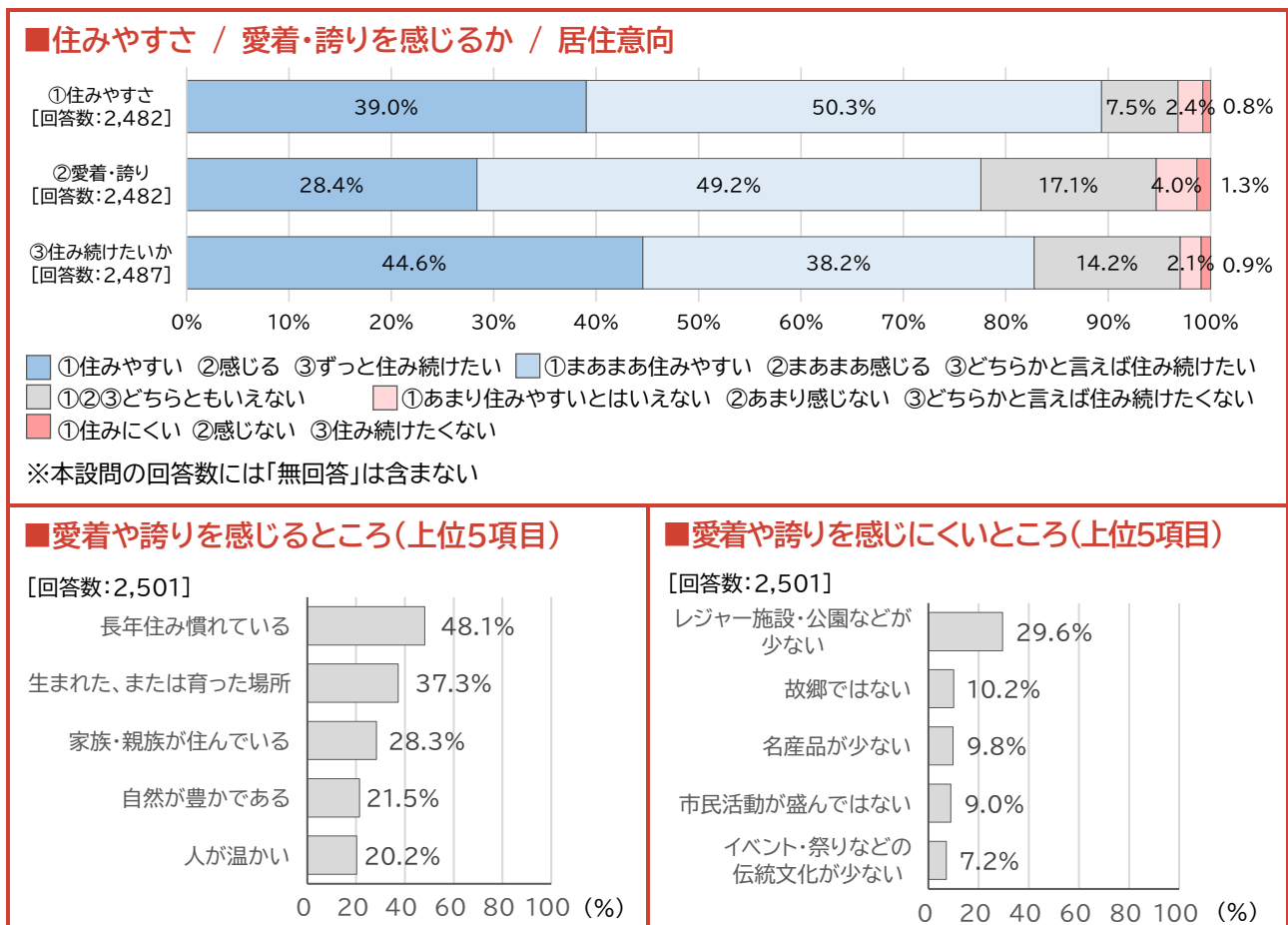
1-2 松山市市民意識調査からみる市民の意向

本市が令和4年度に実施した「第7次松山市総合計画の策定に向けた市民意識調査」では、「松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じにくいか」という問いに対し、「市民活動が盛んではない」「イベント・祭りなどの伝統文化が少ない」を選択した割合が上位となっています。

前述したように、このまま少子高齢化が進展し、地域活動等での担い手不足が加速すると、地域でのまちづくり活動が停滞し、地域での伝統文化の伝承が困難となり、ますます愛着や誇りを感じにくくなっていくことが予想されます。一方で、「まちづくり活動に参加したいと思うか」との問いに「参加したい・どちらかといえば参加したい」を選択した人のうち、「まちづくりに参加する上で、課題や支障になること」について、「時間的な余裕がない」に次いで、「地域がどのような活動をしているか分からない」「参加方法が分からない」を選択した割合が高くなっています。

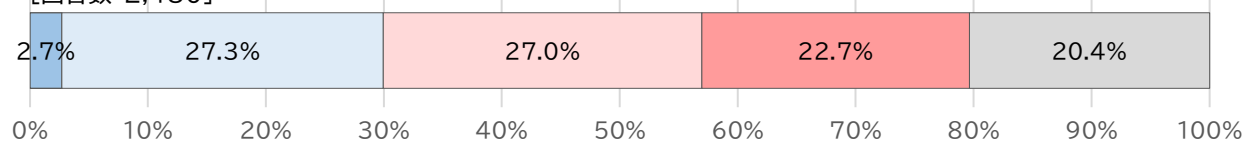
このことから、まちづくり活動に関わりたい意向があるものの、参加する方法が分からないために、参加できていない人が一定数存在することが分かります。そのため、デジタル技術を活用した情報発信など、参加意欲のある人が情報を得られるような仕組みづくりのほか、地域に貢献したいと思う人を快く受け入れる体制の構築が求められます。

図表11 松山市市民意識調査結果の概要



■(住んでいる)地域のまちづくり活動は盛んだと思うか

[回答数:2,480]

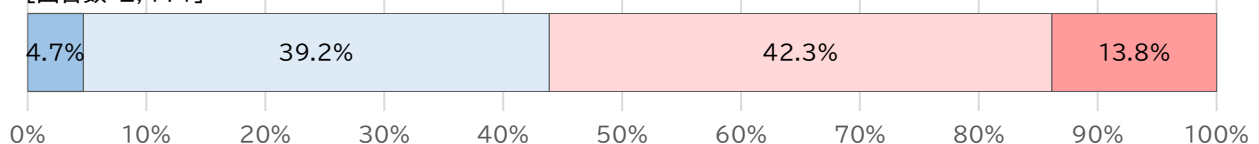


■盛んだと思う □どちらかと言えば盛んだと思う □どちらかと言えば盛んだと思わない ■盛んだと思わない □分からない

※本設問の回答数には「無回答」は含まない

■まちづくり活動に参加したいと思うか

[回答数:2,471]

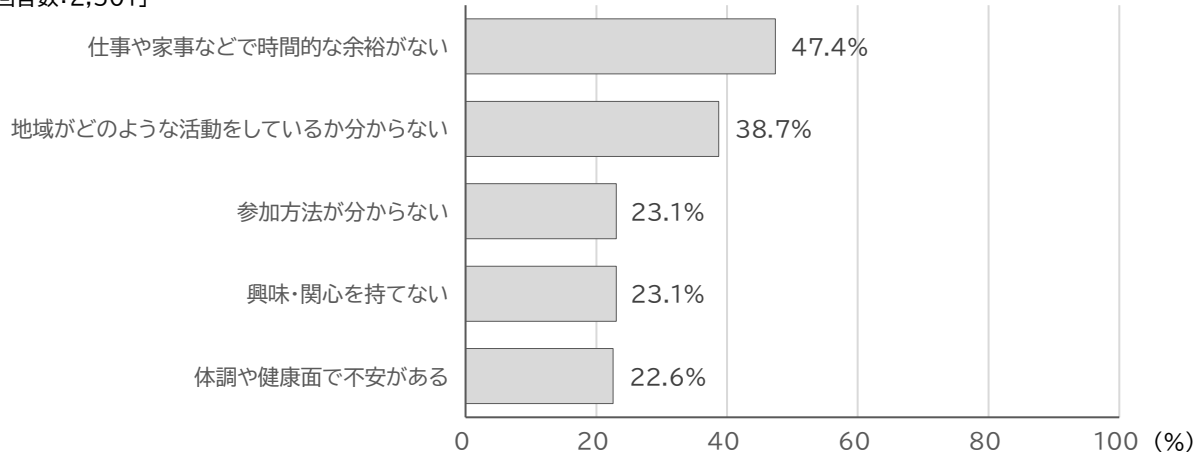


■参加したい(参加し続けたい) □どちらかといえば参加したい □どちらかといえば参加したくない ■参加したくない

※本設問の回答数には「無回答」は含まない

■まちづくりに参加する上で、課題や支障になること(上位5項目)

[回答数:2,501]



2 各地域住民や若者が考える理想の地域

2-1 地域ヒアリングでみられた賑わいの考え方・意向

地域が賑わう姿について、4つの地域でヒアリングを実施しました。それによると、地域内外で人が集まることをはじめ、子どもや若者の増加、子ども・若者が暮らし、まちづくり活動に関わることでの賑わいを求める声が多くなっています。

また、若者や移住者、地域外等、多様なつながりや交流を育むことで、地域の行事に参加する人や地域に帰ってくる人を増やすとともに、若者・子育て世帯が住みたくくなるような魅力を高め、地域の活力を維持・増進していくことが重要視されています。

図表12 「地域が賑わう」とは何か(地域ヒアリングでの主な意見)

地域	地域が賑わうとは何か (上位3位)	主な意見
■ 忽那諸島 	[回答数:35] 地域内外で人が集まる 10 (28.6%) 人口の増加 6 (17.1%) 人とのつながり、コミュニティがある 5 (14.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ○島の子どもたちが定期的に島に帰ってくるようになってほしい ○多世代交流があると良い ○地域の隔たりがなく、島全体が活性化するようになってほしい ○自由な意見や悩み・アイデアが共有しあえるようになると良い
■ 風早 	[回答数:20] 地域内外で人が集まる 11 (55.0%) 人とのつながり、コミュニティがある 6 (30.0%) 子どもや若者の増加 4 (20.0%) 人口の増加 4 (20.0%)	<ul style="list-style-type: none"> ○地区の行事やお祭りに、若い人も参加・協力してもらえるような地域にしたい ○世代を超えたつながりや交流を ○移住者が増えてほしい。移住者が関われるコミュニティが必要 ○若い人が住みたいと思える地域にしたい
■ 三津浜 	[回答数:25] 地域内外で人が集まる 13 (52.0%) 子どもや若者の増加 7 (28.0%) 子どもや若者が暮らしている、暮らしやすいこと 6 (24.0%)	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的に人が集まる・行き来があるようになってほしい ○人が来ること、住む人が増えること、両方が大事 ○子どもが増えてほしい。子どもが安心して遊べる・暮らせる、子育てしやすいまちになっていくと良い
■ 久谷 	[回答数:23] 子どもや若者の増加 12 (52.2%) 農業の活性化 7 (30.4%) 地域内外で人が集まる 5 (21.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの声が聞こえる地域になると良い ○若者が住みたくなる魅力をつくる必要がある ○後継者不足や耕作放棄地の解消など農業が活性化してほしい ○地域外の人も呼び込み、地域が盛り上がると良い

2-2 地区住民アンケート結果からみた地域が賑わう姿

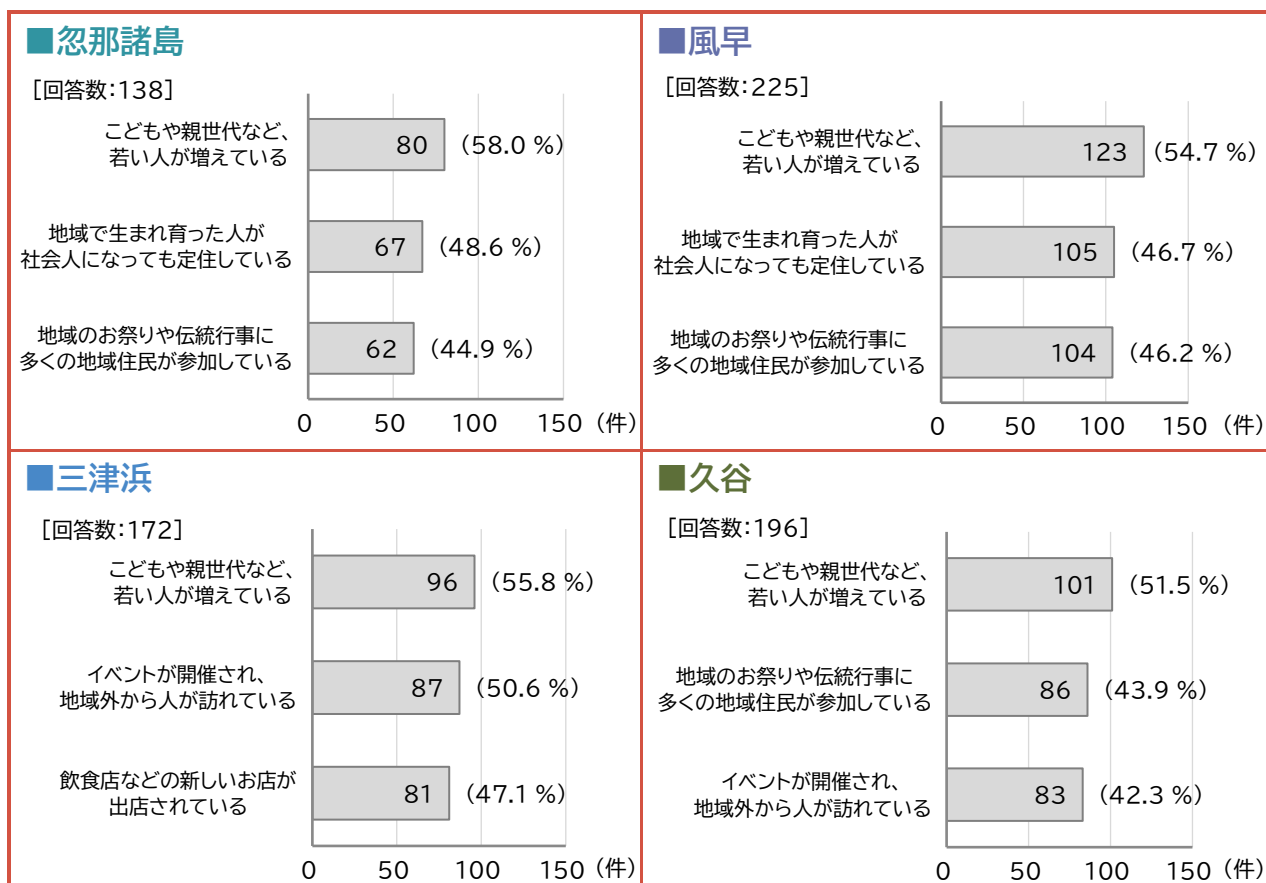
忽那諸島・風早・三津浜・久谷の4地域に在住する18歳以上の住民2,000人を対象に、これまで行ってきた地域振興の取組の検証及び今後の地域のまちづくりについてのアンケート調査を実施しました。

それによると、地域が賑わう姿として、いずれの地域でも「子どもや親世代など、若い人が増えている」ことが、特に求められていることが分かります。

また、「地域で生まれ育った人が社会人になっても定住している」や「地域のお祭りや伝統行事に多くの地域住民が参加している」といった、地域への愛着を持って暮らす・関わることのほか、「イベントが開催され、地域外から人が訪れている」といった、地域外との交流によって賑わいを創出することも重要視されています。

総じて、地域内外のコミュニティが活性化することで、子どもや親世代などの若い人にも関心を持ってもらえる地域となることが求められています。






図表13 「地域が賑わう」とは何か(地区住民アンケート結果:上位3位)



2-3 高校生ワークショップでの地域の課題や取組のアイデア

高校生ワークショップでは、各地域の資源(古民家や地域の畑、海や山などの自然、歴史など)をいかして、地域の課題を解決していくべきというアイデアが多くみられました。また、こうした地域の魅力や特性が知られていないことが課題であり、情報発信を通して地域の賑わいづくりをしていくというアイデアが多くみられました。

図表14 高校生ワークショップでの主な意見

■ 忽那諸島に対する課題・アイデア		
	【主な課題】 ○地域の魅力の普及 ○海などの環境維持 ○生活環境・基盤の充実 ○災害時の安全性の確保	【主な取組のアイデア】 ○畑の貸し出し ○一日島民体験や住みたいと思わせる取組 ○海を守る活動を観光にする ○移住体験施設の災害時利用
■ 風早に対する課題・アイデア		
	【主な課題】 ○海と砂浜の環境維持 ○河野氏をはじめとした魅力の発信 ○遊びに行く場所がない	【主な取組のアイデア】 ○地域の自慢である山や海をいかした観光地(ツアー)づくり ○空き家をいかした取組 ○風早でできること・魅力を知ってもらうための情報発信
■ 三津浜に対する課題・アイデア		
	【主な課題】 ○地域住民のまちづくりへの関心を高めたい ○まちの賑わいの創出、若い人が遊びに来るような環境づくり	【主な取組のアイデア】 ○古民家を活用した店舗のPR ○テナント運営などへの支援 ○港町の特性をいかしたイベントの実施(釣り大会、魚の捌き方教室等) ○空き家のゲストハウス化
■ 久谷に対する課題・アイデア		
	【主な課題】 ○久谷のことを知っている人が少ない ○久谷の魅力が伝わりきっていない	【主な取組のアイデア】 ○久谷の歴史ミュージアムをつくる ○SNSを利用して地域の文化や魅力を発信する ○自然の豊かさや、治安の良さなど暮らしやすさをPRする
■ 坂の上の雲ミュージアムに対する課題・アイデア		
	【主な課題】 ○ミュージアムの認知度 ○イベントの充実 ○イベント内容が知られていない	【主な取組のアイデア】 ○「～をたどる」観光の推進 ○「松山らしさ」を見つけられる仕掛けづくり ○ゆかりの人物を大切にする

3 地域振興の理念

3-1 市内全地域に共通する地域振興の理念

これまで本章で説明してきた地域のまちづくりに関する全国的に生じている問題や、松山市市民意識調査結果からみた市民の意向、ワークショップやアンケートを通して得た理想の地域や地域が賑わう姿などに対する地域住民や高校生の考えは、以下のとおりまとめることができます。

図表15 第2章1・2のまとめ

<p>■時代の潮流</p> <p>地域に求められる役割は増加する一方、まちづくりを担う人材が不足していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化による地域活動の担い手不足 ○地域行事の参画や助け合いの意識の低下 ○自然災害の激甚化・頻発化、広域化による公助の限界 	<p>■松山市市民意識調査</p> <p>まちづくり活動に参加意欲のある市民への情報発信や、受入体制の構築が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○松山市に愛着・誇りを感じる市民は多い ○時間的な余裕のなさや、活動内容がわからない、参加方法が分からないことがまちづくり活動参加への課題となっている
<p>■地域ヒアリング・地区住民アンケート</p> <p>「地域の賑わい」について、子どもや若者の増加、交流、住みたくなるような魅力づくりが主なキーワードとして挙げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なつながりや交流を育むことで、地域に関わる、帰ってくる人を増やしたい ○若い世代が住みたくなる魅力をつくり、地域の活力維持や増進をめざす ○伝統行事やイベント等の地域行事を行うことで、地域内外の交流を生み出し、賑わいをつくる 	<p>■高校生ワークショップ</p> <p>地域の課題解決・賑わいづくりに向けて、「地域資源の活用」と「魅力の発信」が重要視されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域にある資源(海や山などの自然、古民家、歴史等)をいかして、まちの課題を解決していくべき ○地域の魅力や特性が知られていないことが課題で、情報発信を通じて地域の賑わいをつくるべき



図表15で示した課題や視点は、市内のいずれの地域にも共通する事項であり、地域のまちづくりを進める上では、これらの共通事項を踏まえる必要がありますが、まちづくりに関わる様々な個人や団体が連携と結束を強め、共通する課題を解決していくためには、同じ方向を向いてまちづくりに取り組むことが重要です。

そこで、本構想では、市内全地域に共通する地域振興の理念を掲げ、市内全域を屋根のない博物館と捉え、回遊性の高い物語のあるフィールドミュージアムの実現を目指していきます。

この基本理念については、上記の共通事項から導き出される以下のポイントを踏まえて、次頁で示します。

[基本理念の整理に向けたポイント]

- 地域の自然や歴史・文化、伝統行事など、地域資源を活用したまちづくり
- 地域の魅力をいかし、高めることで、地域外から「行きたくなる・住みたくなる」状態をつくる
- 交流を中心とした人とのつながりや、魅力の発信により、まちづくりに取り組む仲間を増やす

< 基本理念 >

“たからみがき”のまちづくり ～人のつながりで未来をつむぐ～

松山市は、平成12年3月から『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想を掲げ、地域の特色をいかした物語のある回遊性の高いまちの実現をめざしています。

これまで、フィールドミュージアム構想のサブセンターゾーンである忽那諸島、風早、三津浜では、それぞれ構想や計画を策定し、地域固有の資源を活用しながら、魅力ある・特色あるまちづくりを進めてきました。

その結果、忽那諸島では島ならではの魅力をいかした体験メニューの提供や、お試し移住施設の整備などにより、交流人口や関係人口、定住人口の創出につながりました。風早では、鹿島の整備や風早の魅力を体感できるイベントを行ったことで、一時期減少していた鹿島への渡船客が増加したほか、北条駅前などを中心に賑わいが生まれました。三津浜では、古民家の活用や地域に根付いた食文化のブランド化を行ったことで、全国的に「三津浜焼き」が認知されるとともに、新規店舗が出店し、多くの方が訪れるようになりました。

また、市内の各地域では、まちづくり協議会の設立や運営に関する支援を行い、住民が主役のまちづくりを進めてきたほか、地域で守り伝えられてきた歴史的・文化的な資源を後世へ継承し、活用する取組を支援する「地域の宝みがきサポート事業」などを通して、住民が主体となった地域資源の利活用を推進してきました。

こうしたまちづくり協議会等の活動により、個性的で特色のあるまちづくりが進められるとともに、地域の魅力や物語を途絶えることなく、次代へつなげていく取組が各地域で行われています。

このように、地域に愛着や誇りを持つ住民が主体となって、単に新しいものをつくるのではなく、「既存の地域資源＝たから」を「最大限活用＝みがく」して地域振興を行う“たからみがき”は、人口減少や少子高齢化が加速し、地域の担い手が不足するといった課題が生じている状況の下では一層重要なまちづくりの要素となります。

また、この“たからみがき”をキーワードに、地域住民がやりがいを感じながらまちづくりを行うことは、地域内外の多くの方にその地域の魅力を知ってもらう機会を創出するほか、シビックプライドの醸成や、ウェルビーイングの実現にもつながります。

新たな地域振興構想では、これまでそれぞれの地域が実施してきた地域振興策を継承するとともに、将来の課題や現状、変化を踏まえ新たなビジョンを描きます。

そこで、フィールドミュージアム構想の実現をめざしていくため、各地域にある資源を「たから」とし、それをみがき、ストーリー性をもってしっかりと語り継いでいく「“たからみがき”のまちづくり ～人のつながりで未来をつむぐ～」を市内全地域に共通する地域振興の基本理念とします。

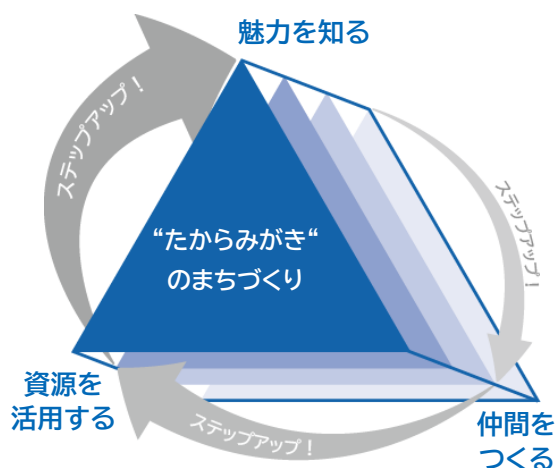
3-2 地域振興の理念に基づく行動指針

行動指針の考え方

「たからみがき」のまちづくり」を地域共通の基本理念とし、その行動指針として3つを掲げます。

具体的には、地域の魅力や価値を地域内外に共有・発信して地域の魅力を地域住民が知る・地域外の人にも知ってもらう行動、まちづくりを一緒に行う仲間をつくる行動、まちづくりの輪が広がることで、地域固有の資源を活用した更なるまちづくりへの行動です。

これにより、地域独自の魅力を高めていくといった、良好なサイクルを構築していきます。



1. 魅力を知る

地域ヒアリングや地区住民アンケートで、「地域で育った子どもが大人になっても帰ってくること、定住すること」や、「若い人が地域の行事などに関わること」が、地域が賑わう姿だという意見が多くみられました。

この実現には、地域内の住民に地域への愛着・誇りを持ってもらうことが重要であり、地域の魅力や価値を地域内で共有する、知る機会を創出することで、愛着を醸成するとともに、たからをみがき、地域外へ発信することによって、地域を大切にしたい、関わりたいと思う人(=仲間)の増加につなげていきます。

2. 仲間をつくる

地域ヒアリングや地区住民アンケートで、「地域の祭りや伝統行事に多くの地域住民が関わること」や、「移住者が関われるコミュニティの構築や地域外の人も呼び込んでいくこと」が地域の賑わいを生み出すために求められるといった意見が多くみられました。

この実現には、地域内だけでなく地域の枠を超えたまちづくり活動を行っていくことが重要であり、関わりたいと思う人の受入れ体制の構築、他地域や教育機関、事業者、来訪者等、多様な主体との交流・連携の機会を多くつくることで、まちづくりの輪を広げ、地域資源の更なる活用につなげていきます。

3. 資源を活用する

地域ヒアリングや地区住民アンケートで、地域が賑わうためには、「イベントなどを開催し、地域内外からの来訪者を増加させること」や、「若い世代などにも響く魅力をつくること」が必要だという意見が多くみられました。

この実現には、各地域の資源・特性などを地域外の目で掘り起こし、更に磨きあげて伝えていくことが重要です。新しい仲間をつくることで新たなアイデアや取組の創出につなげ、固有の資源を活用した独自のまちづくりを地域で一体となって推進していくことで、地域の魅力を高めていきます。

松山市地域振興構想

第3章 地域別構想

1 忽那諸島・風早・三津浜・久谷

1-1 忽那諸島

地域の概況

有人島9島を含む30以上の島々からなる忽那(くつな)諸島は、温暖な瀬戸内海の気候条件をいかした果樹農業や豊富な魚介類が生息する漁場での漁業が盛んで、まつやま農林水産物ブランド商品も多く生産しています。

また、透きとおるきれいな青い海と多島美の雄大な風景が広がる中島で昭和61年から開催されている「トライアスロン中島大会」は夏の風物詩として、島外とのつながりの場となっています。

そのほか、興居島の「島四国」や「船踊り」、中島の「道具踊り」や「やっこ振り」、津和地島の「だんじり祭り」、怒和島の「獅子舞」など個性豊かな独自の伝統や文化が伝承されています。

地域の特長

海水浴やキャンプ、マリレジャーなどが楽しめる施設のほか、地域で組織する「まつやま里島ツーリズム連絡協議会」が「里島めぐり」として様々な体験メニューを提供しています。また、リニューアルした「ほしふるテラス姫ヶ浜」に加え、民間の宿泊施設が増えています。そのほか、「ハイムインゼルごごしま」などお試し移住施設が2施設あり、島の自然や暮らしを体感できる施設が揃っています。

地域資源

- 姫ヶ浜ビーチ(中島)
- トライアスロン中島大会(中島)
- 小富士山(興居島)
- 観音寺(興居島)
- 船踊り(興居島)
- 丸子鼻(怒和島)
- 釣島灯台(釣島)
- 三輪田米山注連石(睦月島)
- 桑名神社(中島)
- 城(中島)
- 鷲ヶ巣海水浴場(興居島)
- 相子ヶ浜海水浴場(興居島)
- 常燈の鼻(津和地島)
- ビヤクシン自生地(二神島)
- 皿山展望台(野忽那島)
- 安居島灯台(安居島) など

[船踊り]



[トライアスロン中島大会]



主な施設

- 中島支所・興居島支所
- 中島B&G海洋センター(中島)
- ほしふるテラス姫ヶ浜(中島)
- 中島総合文化センター(中島)
- 神浦定住促進施設(中島)
- ハイムインゼルごごしま(興居島) など

[ほしふるテラス姫ヶ浜]



特徴的な取組

1. 里島めぐり

(活動主体:まつやま里島ツーリズム連絡協議会)

「松山島博覧会」で生まれた体験メニュー等を継続して充実させるとともに、「体験」「文化」「食」等を通じた交流を促進することで、地域産業の振興を図り、地域を活性化するために協議会が設立されました。

「里島めぐり」では島の地域資源を活用した体験として、地域の各団体が農業体験や自然・レジャー体験、食文化体験、文化・創作体験など、島の魅力や暮らしを体感できるメニューを提供しています。

[島の観光宣伝大使 しまぼう]



[SPLASH BEACH THE NAKAJIMA]
(海上アスレチック)



2. お試し移住施設や空き家バンク

(活動主体:地域の組織やNPO)

忽那諸島への移住希望者を対象に一定期間、島暮らしを体験してもらうお試し移住施設や、忽那諸島での空き家の物件情報を収集・提供する空き家バンクを地域の組織やNPOと協力して運用し、島暮らしに向けた入口づくりを行っています。

[ハイムインゼルごごしま]

(お試し移住施設)



地域の課題と必要なまちづくり

■課題

交通やインフラ等、生活基盤に対する課題認識が強い

[愛ランド里島構想の
施策の満足度(上位3位:地区住民アンケート)]

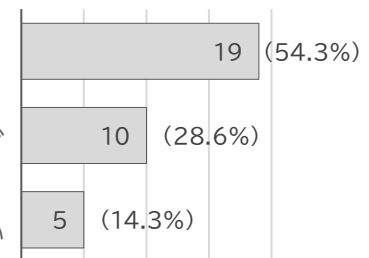
満足度が高い施策(満足+やや満足の割合)		満足度
1	スポーツをとおした活力あるまちづくり [106]	50.9%
2	明日を担う人材の育成 [119]	49.6%
3	健康づくりの推進と医療体制の維持確保 [131]	42.0%
不満度が高い施策(不満+やや不満の割合)		不満度
1	情報化社会に対応したまちづくり [98]	46.9%
2	交通ネットワークの構築 [118]	45.8%
3	環境と調和したまちづくり [101]	32.7%

※[]は、「判断できない」及び無回答を除いた回答数。

[地域で暮らしていく上での課題や不安
(上位3位:地域ヒアリング)]

[回答数:35]

生活基盤、サービス、
インフラ等の維持



0 5 10 15 20 (件)

(まとめ)

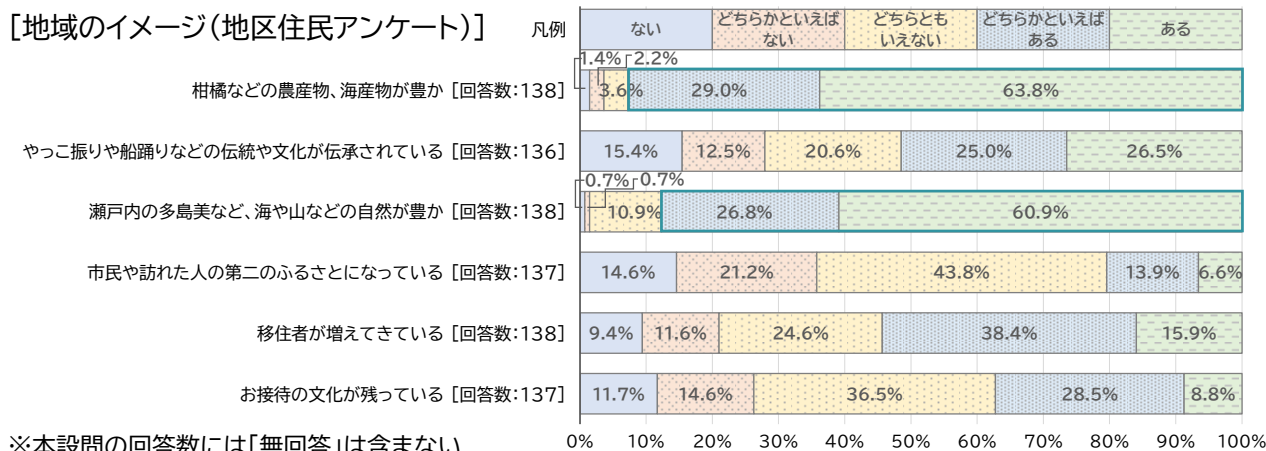
トライアスロン中島大会に代表されるイベントや、海上アスレチック、サイクリングなど、豊かな自然の中で体を動かすスポーツ・レジャーをとおしたまちづくりや、明日を担う人材育成等では満足度が高い状況にあります。一方、急速に進む情報化社会への対応や、島と本土、島内を結ぶ交通ネットワークの構築等では、十分な満足を得られていません。こうした生活基盤、サービス、インフラ等の維持という課題は、人口減少やそれに伴う産業の衰退ともつながっており、将来世代にわたって豊かな暮らしを実現するためのまちづくりを進めていくことが必要と考えています。

■必要なまちづくり

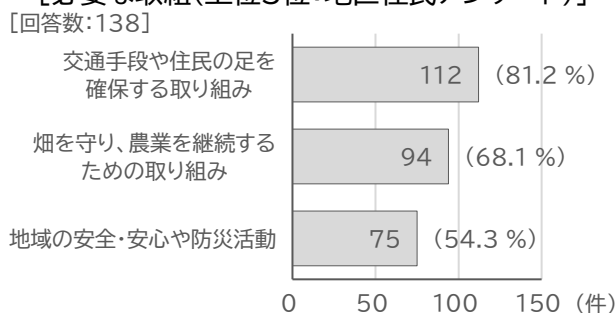
島の産業維持や暮らしをより高めていくまちづくりが求められる

住民意向

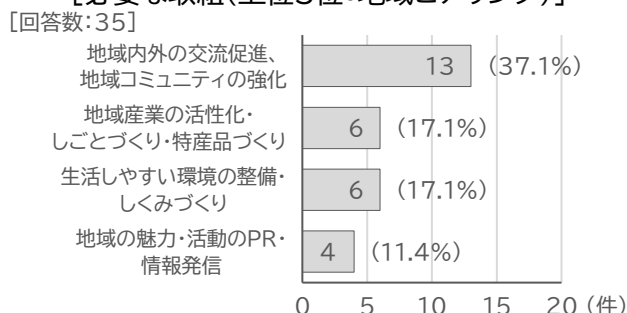
[地域のイメージ(地区住民アンケート)]



[必要な取組(上位3位:地区住民アンケート)]



[必要な取組(上位3位:地域ヒアリング)]



[※参考]高校生アイデア

住みやすいまちプロジェクト

[取組]

- 災害時の備えを充実させる(避難場所、移手段、経路、物資運搬等)
- まちづくりに対する意見箱設置と実現のための資金集め(募金)
- 広告をつくり、地域をPRする

[高校生が関われそうなこと]

- 現状を知る
- 募金活動への参加
- 地域のPR動画をつくる
- 身近な人に共有する
- 積極的にイベントに参加する



「今日から君も忽那諸島民だ！」プロジェクト

[取組]

- 空き家を宿泊施設やコンビニに改修
- 自然や景観を観光資源にする
- 一日島民体験、非日常が味わえる観光
- 畑の貸し出し
- ゴミ掃除の観光化(ゴミアート作成、ゴミ掃除で特産品がもらえる等)

[高校生が関われそうなこと]

- まち全体で、SNSで地域を宣伝。投稿に「いいね！」をする
- 学校の遠足で島に来てもらう
- 特産品を購入する
- 特産品づくりに協力する



(まとめ)

地域内外の交流、コミュニティの維持のほか、課題にも挙げられる交通や生活基盤、地域の安全性など、生活環境について底上げしていくための取組が必要と考える人が多い状況です。また、柑橘をはじめとした農産物や豊かな自然が地域のイメージとして定着しており、特にこうした農地や産業を維持していく、活性化していくとともに、忽那諸島の知名度を上げるような情報発信を行っていくことが、取組の方向性として考えられます。

【めざすまちの姿】

島びとが輝き、島の宝を未来につなぐ、笑顔になれる里の島

【実現に向けた方針】

忽那諸島は、柑橘や海産物、地域資源をいかしたアクティビティなどに代表されるような、穏やかな気候に包まれ、美しい瀬戸内海と大小様々な多島美が織りなす壮大な自然が生活の基盤となる地域です。島民や地域などと行政が協働し、この強みをいかしていくことで、魅力や活力のあるまちづくりを推進し、島に住む人にとって暮らしやすい島となるよう、また、島を訪れる人にとって「第二のふるさと」と思われるような地域を実現します。

1. 里島の特性をいかした産業の振興や魅力の創出

柑橘や海産物、歴史や文化などの地域資源をいかした産業の魅力を高め、地域の活性化や交流人口等の拡大につなげるために、島の産業を支え、魅力を発信する取組の支援や人材の育成などに取り組みます。

2. 安全・安心な生活を守り、暮らしやすい里島を実現する

島に住みたい・住み続けたい、島に移住したい・定住したいと思える住環境を整えていくために、健やかな成長や元気で長生きできる快適な暮らしの実現や安全・安心な日常生活の確保などに取り組みます。

3. 時代の流れを捉えて挑戦し、里島に活力を生み出す

島の持つ豊かさを次の世代につなげていくために、多様化・高度化する社会情勢を捉えながら未来に向かって挑戦できる環境の創出や島に新たな活力をもたらす人材受入・企業立地などに取り組みます。

【定性目標】

- 里島の産業や魅力に興味や関心を持つ人が増えている。
- 里島での暮らしに愛着と誇りを持つ人が増えている。

1-2 風早

地域の概況

松山市北部に位置する風早(北条)地域は、中世伊予の豪族・河野氏の氏寺で発祥の地である「善応寺」や河野氏の祈願寺である「高縄寺」のほか、河野水軍の戦勝祈願を由来に伝わる「鹿島の櫓練り」など、河野氏ゆかりの歴史や文化を有しています。また、海水浴が楽しめるビーチやキャンプ場がある鹿島や、ブナの原生林が広がる高縄山など豊かな自然に恵まれた地域です。

風早地域には、市の無形文化財に指定されている「伊予万歳」をはじめ、獅子舞保存会が8団体あるなど、伝統芸能が脈々と伝承されています。また、郷土料理の「北条鯛めし」はブランド化が進められ、文化庁が認定する「100年フード」にも認定されています。

地域の特長

豊かな自然をいかした農業・漁業が盛んで、市内唯一の道の駅「風早の郷 風和里」では、野菜や魚介類などの地元産品が販売されています。また、海水浴場やキャンプ場など、自然をいかした施設のほか、北条スポーツセンターや波妻の鼻わくわくランド、図書館、文化の森公園など、スポーツ・レクリエーション施設、文化施設も集積しています。

地域資源

- 高縄山(高縄寺・展望台)
- 鎌大師堂
- 鹿島
- 虚子の胸像と句碑
- 一茶の句碑(最明寺)
- 北条鯛めし
- エヒメアヤメ
- 秋祭り(神輿おとし、禊ぎ神輿、櫓練り、かき比べ) など
- 善応寺
- 伊予の二見
- 子規の句碑(粟井坂大師堂)
- 子規・漱石生誕百十年記念碑(粟井坂大師堂)
- 伊予万歳

[鹿島]



[北条鯛めし]



主な施設

- 文化の森公園
- 北条ふるさと館
- 北条児童センター
- 漁港(浅海、柳原など)
- 海水浴場(立岩、新開など)
- 風早の長浜海岸
- 北条スポーツセンター
- 道の駅「風早の郷 風和里」
- かしまーる
- 波妻の鼻わくわくランド など

[文化の森公園]



[道の駅「風早の郷 風和里」]



特徴的な取組

1. 地域資源を活用したイベントの開催

(活動主体:風早まちづくりネットワーク、まちづくり協議会など)

北条地域では、地域の活性化や地域住民の交流の場づくりなどを目的として、地域資源を活用したイベント「風早にぎわいレトロまつり」や「かざはや楽市」などが開催されています。イベントでは、地域の学校や団体、店舗等と連携し、飲食・物販やステージイベント(北条高校吹奏楽部の演奏、伊予万歳、獅子舞演舞ほか)など、様々な催しが行われ、北条地域の魅力を発信しています。



2. 地域の歴史や自然、食文化のPR

(活動主体:風早まちづくりネットワーク、まちづくり協議会など)

北条地域は、鹿島や高縄山など緑豊かな自然に囲まれ、中世伊予の豪族である河野氏ゆかりの歴史・文化など、数多くの資源に恵まれており、認知度向上をめざし、歴史や史跡などを巡るまち歩きツアーや北条地域の山々を紹介したトレッキングマップの制作、郷土料理である「北条鯛めし」のブランド化(ロゴ作成、文化庁100年フードへの認定、スタンプラリーの開催ほか)など、北条地域の魅力ある資源をPRする取組を行っています。



地域の課題と必要なまちづくり

■課題

駅前通りの活性化のほか、人口減少・少子高齢化、空き家の増加が課題に挙げられている

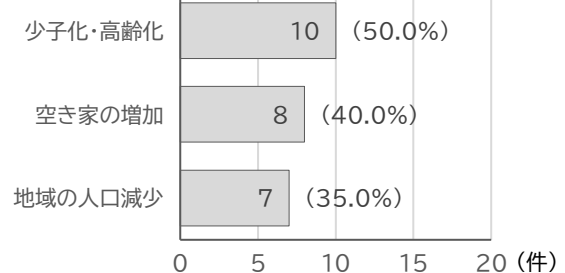
〔風早レトロタウン構想の
施策の満足度(上位3位:地区住民アンケート)〕

満足度が高い施策(満足+やや満足の割合)		満足度
1	地域課題の解決による活性化・環境整備 [183]	39.3%
2	鹿島の活性化・交流促進 [190]	38.4%
3	鹿島の活性化・環境整備 [184]	34.2%
不満足度が高い施策(不満+やや不満の割合)		不満足度
1	駅前通りの活性化・情報発信 [180]	31.1%
2	駅前通りの活性化・資源活用 [191]	26.7%
3	駅前通りの活性化・交流促進 [177]	26.6%

※[]は、「判断できない」及び無回答を除いた回答数

〔地域で暮らしていく上での課題や不安
(上位3位:地域ヒアリング)〕

〔回答数:20〕



(まとめ)

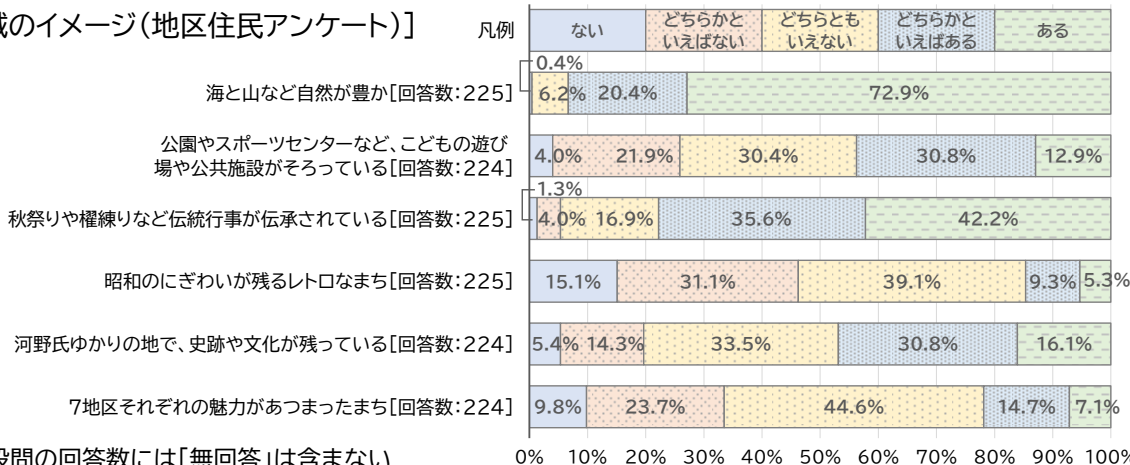
鹿島を訪れる人の利便性や満足度の向上を図るとともに、鹿島へ訪れるきっかけづくりを行ったことなどから、鹿島の活性化については満足度が高くなっています。一方で、JR伊予北条駅前～鹿島間の道に花を植えたり、イベント等を実施したりしているものの、駅前通りの活性化については十分な満足を得られていません。また、全国的にも深刻な人口減少や少子高齢化、空き家の増加についても地域の課題として挙げられています。

■必要なまちづくり

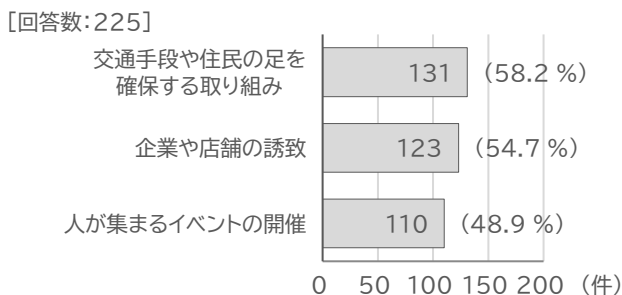
地域外からの来訪・集客・呼び込みなどによる賑わいの創出が必要

住民意向

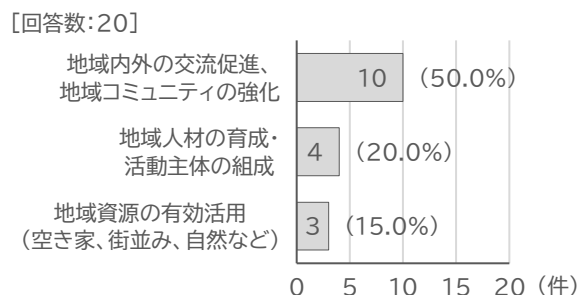
[地域のイメージ(地区住民アンケート)]



[必要な取組(上位3位:地区住民アンケート)]



[必要な取組(上位3位:地域ヒアリング)]



【※参考】高校生アイデア

風早ウルトラレベルUPプロジェクト

[取組]

- 道路や土砂災害防止に向けたインフラ整備
- 企業や会社も巻き込んだまちづくり
- 山や海を活用した観光ツアーづくり
- 空き家をいかした観光地づくり

[高校生が関われそうなこと]

- SNSなどでのイベント発信
- ポスターの作成等、地域のPR
- ボランティア活動への参加
- 他学校と連携し、観光地を紹介する



みんなに北条の魅力を知ってもらおうプロジェクト

[取組]

- 「遠くても来たい」場所(施設、公園、水族館など)をつくる
- インフルエンサーを活用したSNSでの発信・宣伝
- 地域でできることを知ってもらう

[高校生が関われそうなこと]

- SNSで地域をPRする
- クラウドファンディング
- 地域の偉い人に提案する
- インスタ映えスポットの考案



(まとめ)

「昭和の賑わいを求めて」をテーマに取組を進めてきたものの、「レトロなまち」というイメージはあまり定着していない状況です。一方で、自然の豊かさや伝統行事の传承が地域のイメージとして強く、こうした地域資源を有効活用することや、地域内外の交流促進、イベントの開催が必要と考える人が多く、7地区で構成される広域エリアの特性及び海・山・島など自然豊かな特性や、地域内に大学があるメリットをいかした取組を行い、賑わいの創出をしていくことが、取組の方向性として考えられます。

【めざすまちの姿】

豊かな自然や歴史文化が調和し、ここにしかない幸せを感じられるまち

【実現に向けた方針】

地域の住民が世代を超えたつながりやコミュニティを築き、地域の宝である自然や歴史・文化をいかした取組により交流人口の拡大につなげ、まちづくりの機運を醸成していきます。

中世伊予の豪族である河野氏ゆかりの史跡や伝統行事など、地域の宝である歴史や文化を継承し、「時間のつながり」を感じられる取組を進める。また、世代や地区を超えた「地域のつながり」を築き、地域内外の交流を生み出すとともに、海・山・島などの自然豊かな魅力をいかした回遊性のあるまちづくりに取り組みます。

1. 多様な人々がつながることができる仕組みづくり

地域団体や学校、企業などとの連携の促進をはじめ、多様な人々が交流できる拠点を設置することで、世代や北条7地区間を超えたつながりを築くとともに、風早地域全体で観光やインバウンドを対象としたマップの作成や情報発信に取り組みます。また、持続可能なまちをめざすために、後継者問題や移住支援など、地域課題に対して支援・サポートする仕組みをつくります。

2. 豊かな自然など魅力ある地域資源を活用した新たな賑わいの創出

地域内外に向けて風早地域の資源をPRするとともに、豊かな自然を活用したイベントを開催することによって、関係人口や交流人口を生み出します。また、地域特有の農水産物を活用した新たな特産品の開発や、地域内の空き家や空き店舗への新規出店を促進・支援を行うことで、新たな賑わいの創出に取り組みます。

3. 地域の歴史や文化を継承し、活用する

伊予万歳や鹿島の櫓練り、獅子舞など、各地域の伝統行事を保存・継承するための支援やサポートを行うとともに、河野氏などの歴史や史跡を活用し、交流人口の拡大につなげます。また、郷土料理の北条鯛めしなど、地域に根差した食文化の普及や情報発信に取り組みます。

【定性目標】

- 世代間・地域間の交流があり、多様な人間関係・コミュニケーションが生まれている。
- 新たな店舗が増え、住民・観光客などで地域の賑わいが創出されている。
- 風早地域の自然や歴史文化に魅力を感じた移住者が増えている。

1-3 三津浜

地域の概況

松山市西部に位置する三津浜地域は、江戸時代に松山藩の御船手組(船奉行所)が置かれ、漁業・商業のまちとして栄えてきた地域で、戦災を免れたこともあり、かつての港町の面影を残した古い町並みが続いています。また、港町ならではの豊かな魚食文化が育まれているほか、大正時代の一銭洋食までさかのぼる三津浜焼きなど、独自の食文化が伝承されています。

また、三津浜地域に隣接する梅津寺地域は、松山への海の玄関口の松山観光港があるほか、小説『坊っちゃん』に登場するターナー島(四十島)や小説『坂の上の雲』の主人公、兄・秋山好古と弟・秋山真之の銅像など、物語ゆかりの地域資源があります。

地域の特長

歴史的な町並みや水産市場のほか、幼稚園・保育園や子育て支援センター、学校、図書館、公園などの公共施設が充実しています。また、伊予鉄道高浜線が通り、市内中心部までの移動利便性が高いほか、松山観光港・三津浜港・高浜港があり、広島や福岡、山口、忽那諸島から訪れる人々の松山への玄関口にもなっています。

地域資源

- | | |
|---------------|-----------------|
| ○三津浜の町並み | ○三津の渡し |
| ○森家住宅 | ○三津巖島神社 |
| ○日露戦役表忠碑 | ○栽松碑 |
| ○石崎汽船日本社 | ○辻井戸 |
| ○大原其戎の墓 | ○ターナー島 |
| ○白石の鼻巨石群 | ○三津浜焼き |
| ○きせんのりばと子規の句碑 | ○秋山好古・真之兄弟銅像 など |

[三津の渡し]



[秋山兄弟銅像]



主な施設

- 三津浜にぎわい創出事務所三津ハマル
- 三津浜図書館
- 三津ふ頭
- 松山市公設水産地方卸売市場
- 三津浜商店街
- 愛フィールド梅津寺
- 梅津寺公園
- 松山観光港
- 三津浜港
- 高浜港 など

[松山市公設水産地方卸売市場]



[梅津寺公園]



特徴的な取組

1. 三津ハマル(町家バンク・マッチング、リノベーションなど)

(活動主体:三津浜地区にぎわい創出実行委員会)

三津ハマルは、三津にハマル雰囲気づくりや、ハマれる環境づくりをしていくプロジェクトです。その1つとして、三津浜地域内の空き家・空き店舗の増加を受けて、空き家の家主と三津浜での新規出店・移住希望者とをマッチングする町家バンクを運営しています。また、シェアショップとして空き家・空き店舗をリノベーションし、テナント運営をするなど、三津浜での新規出店や移住を促進することで、まちの新たな賑わいの創出につなげています。



2. 三津浜焼きのブランド化・PR推進

(活動主体:平成船手組 / 三津浜地区にぎわい創出実行委員会)

「三津浜焼き推進プロジェクト」として、三津浜焼きの参加協力店とともに、スタンプラリーなどのキャンペーンや、市内外で行われるイベント等への出店、「ご当地こなもんサミット」を開催するなど、三津浜焼きの認知度向上を図ることで、地区への誘客を促進しています。



地域の課題と必要なまちづくり

課題

憩いの場づくりやプロモーション活動について、満足度が低くなっている。

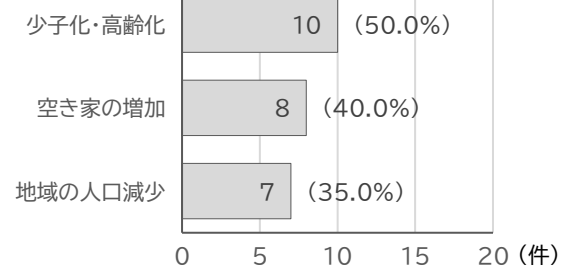
[三津浜地区活性化計画の
施策の満足度(上位3位:地区住民アンケート)]

満足度が高い施策(満足+やや満足の割合)		満足度
1	三津浜食文化のブランド化の推進 [154]	51.3%
2	町家バンクの推進と運営支援 [134]	50.0%
3	地域のまちづくりと一体となった戦略的な誘客施設の検討 [143]	46.9%
不満度が高い施策(不満+やや不満の割合)		不満度
1	港周辺の憩いの場づくりの検討 [121]	19.8%
2	民間主導の景観まちづくりに対する支援 [134]	16.4%
3	三津浜地区プロモーション活動の推進 [135]	14.1%

※[]は、「判断できない」及び無回答を除いた回答数

[地域で暮らしていく上での課題や不安
(上位3位:地域ヒアリング)]

[回答数:20]



(まとめ)

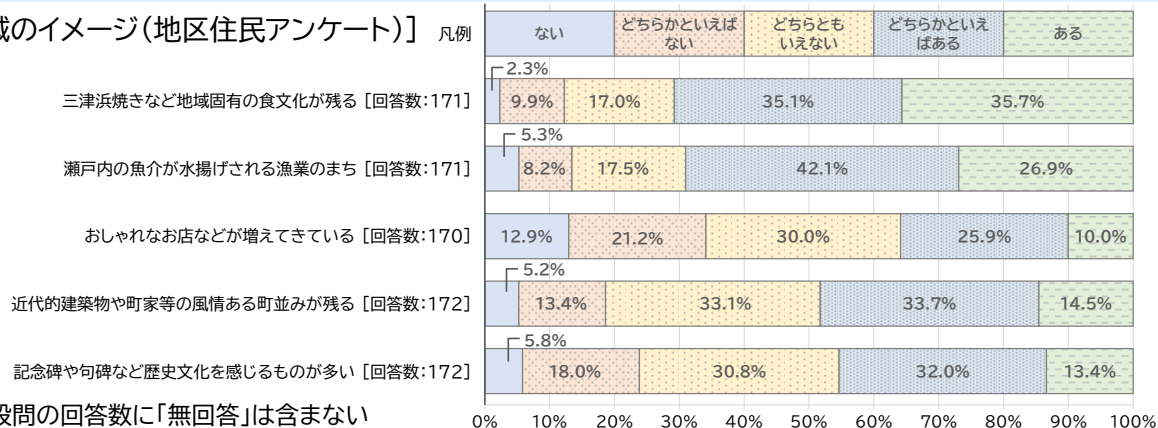
三津浜焼きのブランド化や、古民家の活用、シェアショップの運営など、食文化や古民家活用の取組を行ったこともあり、それらの施策については、満足度が高くなっています。全体的に不満度は低い状況ですが、港周辺の憩いの場づくりやプロモーション活動について課題と捉えているほか、町家バンクの取組は行っているものの、空き家の増加を地域課題として考える方が多くなっています。

■必要なまちづくり

住民・来訪者・商業者等、多様な人々にとって魅力的な環境づくりが求められる

住民意向

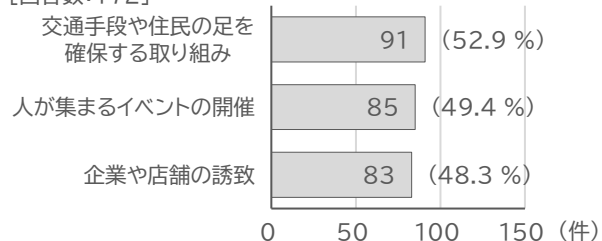
【地域のイメージ(地区住民アンケート)】 凡例



※本設問の回答数に「無回答」は含まない

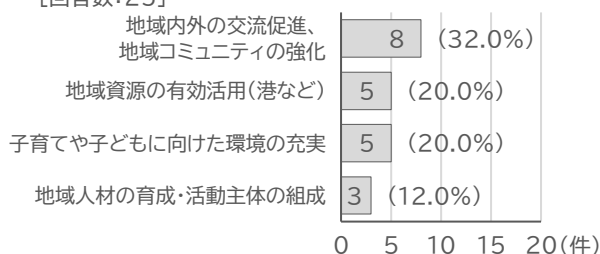
【必要な取組(上位3位:地区住民アンケート)】

[回答数:172]



【必要な取組(上位3位:地域ヒアリング)】

[回答数:25]



【※参考】高校生アイデア

海まちオシャレプロジェクト

【取組】

- 古民家を活用した店舗のPR
- SNSで拡散した人に割引キャンペーン
- 作品展示や絵画コンクール等の開催
- 釣り大会、魚の捌き方教室

【高校生が関われそうなこと】

- 三津浜・梅津寺に訪訪する
- チラシなどをつくってSNSで拡散する
- ボランティアを募って活動に参加する



『MITU』プロジェクト

【取組】

- 個人経営や企業の誘致・支援
- 空き家のゲストハウス化
- 参加型・体験型観光ツアーの実施
- 働きながら子育てできる場をつくる
- スタンプラリーで魅力を知ってもらう

【高校生が関われそうなこと】

- SNSで地域の良いところを紹介する
- 家族・友達との会話の中で三津浜・梅津寺の話題を出す
- イベントへボランティアで参加する



(まとめ)

漁港や市場がある特性から、漁業のまちであること、施策満足度の高さと比例して地域固有の食文化があることが地域のイメージとして定着していますが、地域内への新規出店を促進しているものの、「おしゃれな店が増えてきている」ことへのイメージが低くなっています。

また、地域内外の交流促進、地域資源の有効活用、イベントの開催が必要と考える人が多いことから、住民や店舗等にとって過ごしやすい地域としてはもちろん、港周辺など地域資源を活用した集客力の高いイベントを開催するなど、来訪者にとって魅力的な環境づくりを行っていくことが取組の方向性として考えられます。

【めざすまちの姿】

『住んで訪れて楽しいまち三津浜』人と人が交流し港町の風情が息づくまち

【実現に向けた方針】

古い町並みなどかつて賑わった港町の風情が残る歴史や文化を継承するとともに、三津の渡しなど魅力ある地域資源を活用した新たな賑わいづくりを行うことで、多様な人が「交流」し、住んで・訪れて楽しいまちづくりに取り組みます。

1. 港町の歴史や文化を活用した魅力の創出

地域内の古民家や空き家、歴史的な町並みを活用することによって、新たな賑わいの創出を行います。また、ソウルフードである三津浜焼きをはじめとした食文化の継承発展に努めるとともに、新たな特産品の開発やPRに取り組みます。

2. 多様な人が交流できる場をつくる

三津浜の地域資源をいかしたイベントを海岸エリアも含めて開催することにより、交流人口の拡大を図るとともに、出店者や参加者に港町の魅力を発信し、実感してもらうことで、移住促進にもつなげていきます。あわせて、地区内外の出店者が連携できる体制を構築するなど、三津浜を拠点に様々な人が交流できる場づくりに取り組みます。

3. 住んでいる人の愛着や誇りの醸成

三津の朝市や海、港など、港町固有の魅力を発信するなど、かつて賑わった港町の歴史や受け継がれてきた文化を次代に継承するほか、地域内外に向けて多様なメディアを活用したプロモーションを行うことで、地域に住む人のシビックプライドの醸成に取り組みます。

【定性目標】

- 魅力的な店舗の出店やイベントが開催されまちの賑わいが創出されている。
- 町を歩いて楽しい空間づくりができています。
- 三津浜を好きな人が増えている。
- まちづくりに関わる人・団体・企業・学校が増えている。

1-4 久谷

地域の概況

松山市南部に位置する田園地帯である久谷地域のうち、荏原地区には、国指定重要文化財の渡部家住宅をはじめ、県指定文化財の荏原城跡、市指定文化財の八ツ塚群集古墳、四国遍路の始祖といわれる衛門三郎ゆかりの文殊院などの史跡が数多くあります。また、坂本地区は古来、土佐街道の要衝であり、遍路道や四国八十八ヶ所の札所である八坂寺、浄瑠璃寺を有するほか、明治末期から大正初期に建てられた旧遍路宿の坂本屋を修復し、地元住民と歩き遍路をする人々が交流できる接待所として活用するなど、四国八十八ヶ所にゆかりのあるゾーンとなっています。

地域の特長

お寺など四国八十八ヶ所ゆかりの資源のほかにも、えひめこどもの城や愛媛県立とべ動物園などが遊び場として親しまれています。また、一六本舗本社工場や砥部焼づくりなどの体験ができるスポットがあるなど、産業・文化を体感できます。

地域資源

- 文殊院
- 渡部家住宅
- 八坂寺
- 大黒座
- 秋山好古の書碑(正八幡神社)
- 山口霊神
- 札始大師堂
- クスノキ(正八幡神社) など
- 八ツ塚群集古墳
- 坂本屋
- 浄瑠璃寺
- 子規の句碑(浄瑠璃寺 / 丹波)
- 網掛け石
- 荏原城跡
- イブキビャクシン(浄瑠璃寺)

[渡部家住宅]



[山口霊神]



主な施設

- 愛媛県立とべ動物園
- 愛媛県総合運動公園
- えひめこどもの城
- 愛媛県生涯学習センター
- えひめ青少年ふれあいセンター
- 一六本舗 本社工場
- 砥部焼観光センター炎の里 など

[えひめこどもの城]



特徴的な取組

1. 地域資源を活用したイベントの開催

(活動主体:久谷地区まちづくり協議会、くぼの里山会)

地域の小中学生による水軍太鼓の演奏やダンスの発表のほか、トゥクトゥク(7人乗り三輪車)で久谷を巡るツアーなどが楽しめるフェスタを、久谷地区まちづくり協議会が渡部家住宅で春と秋に開催しています。また、地域で長年親しまれてきたホタル祭りを引き継ぎ、くぼの里山会主催の「くぼの町ホタルまつり」として令和4年から開始されたイベントでは、焼きトウモロコシや炊き込みご飯などの販売や、音楽や舞の演奏・演舞を楽しむことができるなど、久谷の地域資源の魅力が詰まったイベントが地域内で行われています。



2. お遍路さんへのお接待

(活動主体:坂本屋運営委員会、渡部家住宅お接待所運営委員会)

明治末期から大正初期に建てられた木造の遍路宿「坂本屋」は、平成16年に地元住民と歩き遍路をする人々が交流できる接待所として修復され、地元有志によるお接待や、様々なイベント・行事が行われています。

また、国指定重要文化財の渡部家住宅でも、令和3年からお接待が開始され、地元住民のボランティアのもと、国内外から訪れる遍路客へのおもてなしを行っています。



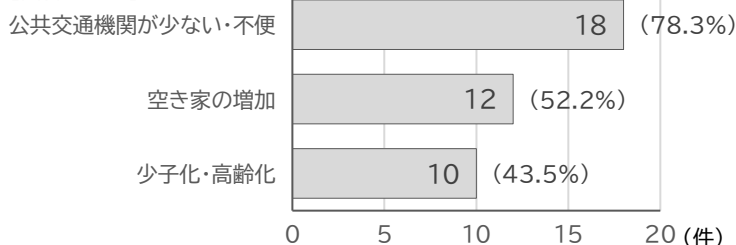
地域の課題と必要なまちづくり

■課題

公共交通機関の利便性、空き家の増加、少子高齢化が課題として挙げられる

[地域で暮らしていく上での課題や不安(上位3位:地域ヒアリング)]

[回答数:23]



※久谷地域には、これまで地域振興の構想や計画が無かったため、施策満足度の調査はなし

(まとめ)

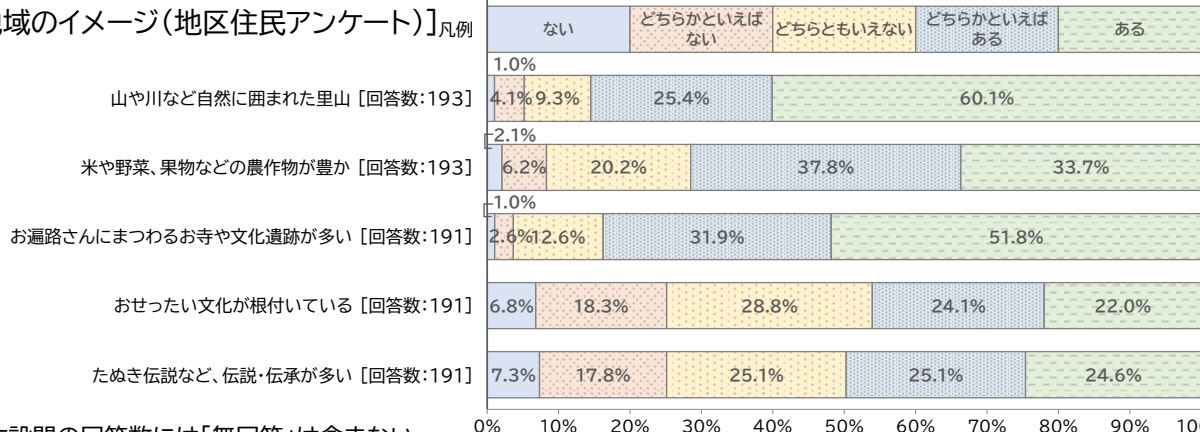
久谷地域では、令和3年3月末で路線バスが廃線となり、予約制乗合タクシーが運行されているものの、公共交通機関の利便性について課題と考える方が多くなっています。また、全国的な状況と同様に、少子高齢化や産業の担い手・労働力不足による空き家の増加や耕作放棄地の増加についても、課題であると挙げられています。

■必要なまちづくり

地域内外の交流のほか、移住促進、魅力のPRなどによる地域の活性化が求められている

住民意向

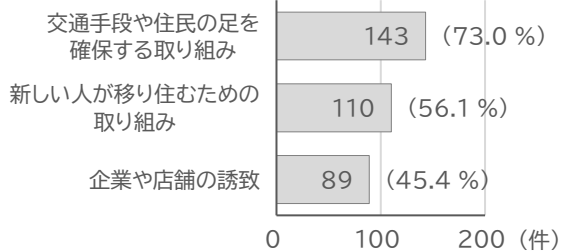
【地域のイメージ(地区住民アンケート)】凡例



※本設問の回答数には「無回答」は含まない

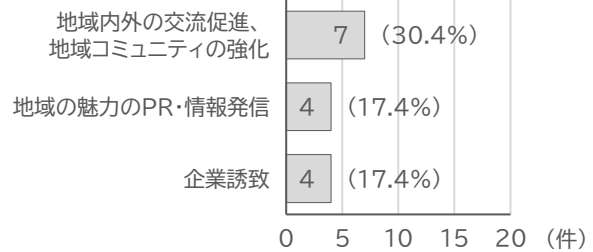
【必要な取組(上位3位:地区住民アンケート)】

【回答数:196】



【必要な取組(上位3位:地域ヒアリング)】

【回答数:23】



【※参考】高校生アイデア

久谷へGo～！！どこでも砥部ドアッププロジェクト

【取組】

- 交通の便・利用しやすさの改善
- 医療・福祉の充実
- 治安の良さ、自然の豊かさをPRし、移住者を増やす
- 久谷の歴史を伝える場や、砥部焼などの資源をPRする場をつくる

【高校生が関われそうなこと】

- 伝統や文化を知る
- 地域を巡り「知られざる砥部・久谷の魅力」をPRする
- 地域のイベントや市の活性化プロジェクトに参加する



過疎化を阻止-今の久谷・砥部を造るために-

【取組】

- インパクトのあるコンテンツ・取組を地域につくる(恋愛リアリティ番組の場、美容整形、サッカークラブ、スキー場、サファリパーク、アイドルグループ、温泉パーク等)

【高校生が関われそうなこと】

- 好きでいつづける
- 自身が有名になり宣伝する
- 友達と遊びに行く
- 話題を広げる



(まとめ)

課題としても挙げられた交通面のほか、空き家対策や久谷に移り住むための取組といった生活環境の整備を求める声が多くなっています。また、田園地帯である里山の自然や農産物が豊かであること、お寺や文化遺跡が多いというイメージが定着していますが、PR・情報発信が必要という意見が多いように、その魅力が知られていないことも課題として考えられるため、久谷地域が持つ地域資源の情報発信に力を入れて、地域内外の交流促進や企業・店舗の誘致などにつなげていくことが求められます。

【めざすまちの姿】

里山の風景のなか、人と人が語りあいお接待の心が広がるまち

【実現に向けた方針】

四国遍路発祥にまつわる伝承が残るなど、お遍路文化が根付くほか、日本三大狸伝説ゆかりの地という「物語性」をいかします。また、地域資源の価値を再評価した取組の成果を踏まえて、里山の地域特性をいかしたブランディングによる情報発信や教育機関と連携したまちづくりに取り組みます。

1. 里山とともに守られてきた物語を未来につなぐ

お遍路さんへのお接待など、坂本屋や渡部家住宅を有効活用するとともに、地域資源を紹介するマップなどを活用し、地域住民も外から訪れた人も久谷地域内を楽しく回遊できるようにするなど、これまで守られてきた久谷の歴史や文化を次代につないでいきます。また、訪れた人がおもてなしの心や田園風景の癒しを感じられるように、里山の雰囲気維持・継承に取り組みます。

2. 全国に通じる宝をいかした“久谷”のブランディング

豊かな自然が生み出す農作物や、狸伝説など全国に通じるポテンシャルを秘めた地域資源をいかして、窪野の献上米など食文化を通じたブランディングや、久谷＝たぬきとイメージできるような地域産品の開発に取り組みます。また、リニューアルしたまちづくり協議会のホームページを活用するほか、久谷を訪れたお遍路さんから久谷の魅力を発信してもらえるような仕掛けづくりに取り組みます。

3. 地域の特性をいかした交流の場づくり

地域の小中学校をはじめとする教育機関や企業など、様々な団体と連携し、子どもと大人が交流する仕組みをつくることで、地域コミュニティの活性化につなげます。また、地域内の交流だけでなく、他の地域と相互の交流を生み出すような取組についても検討します。

【定性目標】

- 地域で開催されるイベントやお接待に、大人から子どもまで関わる人が増え、コミュニティが活性化している。
- 地域内外に久谷のファンが増えて、久谷を訪れている。

2 松山城周辺・道後温泉・松山総合公園

松山総合公園サブセンターゾーン

地域の概況・位置付け

頂上広場には松山城や市街地が一望できる展望台があり、令和4年には日本夜景遺産として認定された松山総合公園を中心としたゾーンです。公園内には、大型遊具や椿園、動物愛護センター「はぴまるの丘」、ドッグランがあり、市民憩いの場としての役割を担っています。

近隣には国宝の本堂と伝説の「うば桜」がある大宝寺や、藤の名所で花と句に親しめる庚申庵史跡庭園があるなど、松山市の歴史とあわせて、四季折々の花や緑を楽しめるほか、松山市総合コミュニティセンターでは文化・スポーツにも親しめます。また、JR松山駅周辺では整備が進められ、新たな賑わいも生まれています。

主な地域資源・施設

- 松山総合公園
- 動物愛護センター「はぴまるの丘」
- 庚申庵史跡庭園
- 松山市考古館・埋蔵文化財センター
- 大宝寺
- 松山市総合コミュニティセンター
- JR松山駅
- など

[松山総合公園]



[大宝寺]



松山城周辺センターゾーン

地域の概況・位置付け

松山市の中心市街地であり、松山城や坂の上の雲ミュージアム、秋山兄弟生誕地、子規堂など小説ゆかりの史跡や施設のほか、松山市民会館や愛媛県美術館などの文化施設、大街道や銀天街などの中央商店街もあり、様々な都市機能が集約しています。また、地域交通の拠点として、道後をはじめ市内各地域へ人々を送り出すなど、『坂の上の雲』のまちづくりとして大きな役割を担う地域です。

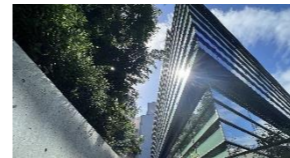
主な地域資源・施設

- 松山城
- 坂の上の雲ミュージアム
- 秋山兄弟生誕地
- 子規堂
- 松山市民会館
- 愛媛県美術館
- 萬翠荘
- 中央商店街
- 東雲神社 など

[松山城]



[坂の上の雲ミュージアム]



【※参考】高校生アイデア

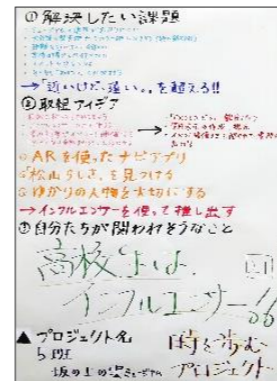
時を歩むプロジェクト

[取組]

- 地域をたどる観光パックの構築
- イベントの開催地を限られた場所からより広げて実施する
- ARを使ったナビアプリの活用
- 「松山らしさ」やゆかりの人物を大切に

[高校生が関われそうなこと]

- 高校生はインフルエンサー！
(高校生自身がインフルエンサーとなって地域の魅力等を積極的に広めていく)



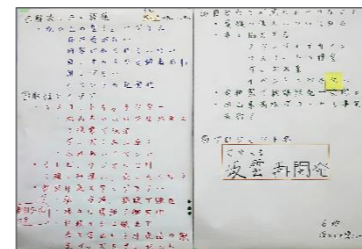
坂雲再開発

[取組]

- マスコットキャラクターづくり
- テレビ、ラジオCMなどでのPR
- 御朱印風スタンプラリーの実施

[高校生が関われそうなこと]

- 地域の偉人について知る
- PRするツールづくりやイベント等への協力



道後温泉 サブセンターゾーン

道後温泉サブセンターゾーン

地域の概況・位置付け

日本最古といわれる名湯 道後温泉があるゾーンで、旅館やホテルが立ち並び、土産物店などが軒を連ねる商店街、無料で楽しめる足湯や手湯もあり、地域内は多くの観光客で賑わいをみせています。

また、温泉や観光施設以外にも、四国霊場の石手寺や一遍上人誕生地の宝厳寺などの寺社仏閣、桜の名所の道後公園・湯築城跡があるなど、歴史や文化、自然も感じることでできる地域で、市内外はもとより、全国や海外から人を集め、市内中心部等へ送り出す役割を担っています。

主な地域資源・施設

- 道後温泉本館
- 道後温泉別館 飛鳥乃湯泉
- 椿の湯
- 道後放生園
- 道後公園・湯築城跡
- 道後商店街
- 石手寺
- 宝厳寺
- 松山市立子規記念博物館
- ロシア兵墓地
- 旧北予中学校(松山北高校)
- など

[道後温泉本館]



[松山市立子規記念博物館]



松山 総合公園 サブセンターゾーン

松山市地域振興構想
資料編

『坂の上の雲』のまちづくりを中心とした主な取組

坂の上の雲ミュージアムの管理・運営

平成19年にオープンした『坂の上の雲』のまちづくりの中核施設です。主に、「展示施設」「交流施設」「フィールドミュージアムガイダンス施設」の3つの役割を担っています。



[主な取組]

- 企画展の実施
- ラジオ等でのPR
- コンサートや朗読会などのイベントの開催 など

フィールドミュージアムの周知・活用

小説『坂の上の雲』ゆかりの史跡や地域固有の資源をひとつの作品に例え、市内全体を屋根のない博物館として地域を回遊してもらうために、各地域の資源に触れて、松山市や各地域の魅力を実感できるような取組を推進しています。



[主な取組]

- 『坂の上の雲』ふるさとウォーク
- 挑め！フィールドミュージアムマスター
- 『坂の上の雲』のまち松山 サイクルロゲイニング大会
- 『坂の上の雲』のまちを巡ろう！360度動画リレー など

市民主体のまちづくりに対する支援

住民主体の個性的な地域づくりを推進するため、地域資源の整備や魅力の向上など、まちづくり活動などへの補助支援を行っています。各地区の「まちづくり協議会」やNPOなどの市民活動団体が自主的なまちづくりを進めており、こうした組織の活動を支援しています。



[主な取組]

- コミュニティアドバイザー派遣事業
- 地域力パワーアップ大会
- まちづくり講座の実施
- まちづくり協議会通信など情報発信
- NPOサポートセンターの運営 など

[主な補助事業]

- 松山市地域の宝みがきサポート事業補助金
- 松山市民活動推進補助金
- 松山市地域におけるまちづくり補助金
- コミュニティ助成事業 など

特色をいかした文化・スポーツの取組

本市の豊かな文学的土壌を受け継いでいくために、「ことば文化」をいかした「ことばのまち」としてのまちづくりを推進しています。また、正岡子規にもゆかりのある野球をはじめ、スポーツが盛んな特性をいかした取組等、文化・スポーツ両輪で特色あるまちづくりを進めています。



【主な取組】

- 俳句甲子園
- 坊っちゃん文学賞
- ことばのちからイベント
- 愛媛マラソン
- 俳都松山俳句ポスト
- 響け!!言霊“ことばのがっしょう”群読コンクール
- トライアスロン中島大会 など

移住・定住の推進PR

本市への移住・定住につなげるため、移住を体感できる事業・ツアー等の実施、お試し移住施設の整備のほか、移住相談や情報発信等を推進しています。また、移住・定住人口を増やすことを目標に、松山市の若者が集い情報発信を行う、マツワカの運営などを行っています。



【主な取組】

- 移住体感ツアーの実施
- 移住コンシェルジュ・移住相談窓口
- お試し移住施設の整備(神浦定住促進施設、ハイムインゼルごごしま)
- プロジェクトチーム「マツワカ」の運営 など

地域振興に向けた計画づくり・施策推進

地域課題を解決し、持続して発展する地域づくりの実現に向け、市民主体のまちづくりを推進する「まちづくり基本構想」策定のほか、サブセンターゾーンである忽那諸島や風早、三津浜での地域振興に向けた計画を策定し、計画に基づく施策を推進しています。



【主な計画】

- 地域におけるまちづくり基本構想(平成18年策定)
- 松山市愛ランド里島構想(平成24年策定) ※忽那諸島が対象
- 松山市風早レトロタウン構想(平成25年策定) ※風早地域が対象
- 三津浜地区活性化計画(平成26年策定) ※三津浜地区が対象 など

各ゾーンの特徴

本市では、『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想に基づき、各地域で特色のあるまちづくりが進んでいます。

[センターゾーン]

松山城周辺 センターゾーン

松山市の歴史や文化を回遊して感じられるまちづくりの中心

小説『坂の上の雲』の主人公たちが産声をあげた城下町・松山の中心地。松山のシンボル松山城を背に、主人公たちの生家跡や遊び場所、学校跡など『坂の上の雲』ゆかりの史跡、施設が集積しています。



[取組例・特徴]

- ロープウェイ街、大街道一番町口、花園町通り、松山市駅前広場の整備など、歩いて暮らせるまちづくりの推進
- 松山城周辺を中心とした様々な文化・歴史資源の活用 など

[サブセンターゾーン]

道後温泉 サブセンターゾーン

市のシンボル・価値の継承と道後ブランドの普及

正岡子規、夏目漱石も通った、明治情緒が漂う日本最古といわれる名湯・道後温泉があるゾーン。周辺には子規記念博物館や、ロシア兵捕虜たちを供養するロシア兵墓地など小説『坂の上の雲』ゆかりの地のほか、中世伊予の豪族・河野氏の居城・湯築城跡や石手寺、一遍上人誕生地の宝厳寺などの史跡もある。



[取組例・特徴]

- 道後温泉の保存修理・整備
- 道後温泉でのアート事業の実施
- 「ひみつジャナイ基地」を拠点とした道後温泉での交流事業の促進 など

三津浜・梅津寺 サブセンターゾーン

レトロなまちなみと食文化をいかした地域活性化を推進

小説『坂の上の雲』の主人公たちが青雲の志を抱いて旅立ち、降り立った古い港町。青年時代の子規もこの町で俳句を学びました。町並みや渡し船など往時の面影が今も息づき、瀬戸内海を見晴らす梅津寺背後の丘には、秋山好古・真之兄弟の銅像がたたずんでいます。



[取組例・特徴]

- 三津ハマルによる町家バンクの運営
- シェアショップの整備など、空き家・空き店舗の活用
- 三津浜焼きを中心とした食文化のPR推進 など

忽那諸島 サブセンターゾーン

里島での暮らしや環境を実感・体感できる取組を推進

有人島9島を含む30以上の島々からなる忽那諸島。春は柑橘の花の甘酸っぱい香り、夏は太陽と海と白い砂、秋は個性的で悠久の歴史漂う祭り、冬は黄金色に染まるみかんと、四季折々に訪れる人を魅了します。1年を通して釣り人を楽しませる魚介類も見逃せません。



[取組例・特徴]

- 「ほしふるテラス姫ヶ浜」を拠点とした集客
- 「ハイムインゼルごごしま」等を活用した移住体験の推進
- 「里島めぐり」等による島体験の提供 ●トライアスロン中島大会の実施 など

風早 サブセンターゾーン

地域産品・自然のPRや賑わいを創出するイベント等を推進

河野水軍のふるさと。高縄寺や善応寺、鹿島など河野氏ゆかりの史跡や勇壮な祭りからは往時がしのばれます。ブナの原生林が広がる高縄山は、瀬戸内海が一望できる自然散策ゾーンとして、海辺はリゾートとスポーツのゾーンとして人気です。



[取組例・特徴]

- 「風早にぎわいレトロまつり」など賑わいイベントの実施
- 北条鯛めしのブランド化・PR推進
- 河野氏にまつわる歴史資源を活用したツアーなどの開催 など

松山総合公園サブセンターゾーン

眺望と憩いの拠点づくりの推進

季節の花と緑や眺望に恵まれた市民の憩いの場である松山総合公園を中心としたゾーン。周辺には総合コミュニティセンターや藤の名所である庚申庵やうば桜で知られる大宝寺などもあります。



[取組例・特徴]

- 松山総合公園展望広場の日本夜景遺産認定
- はびまるの丘(動物愛護センター)の整備

久谷・砥部サブセンターゾーン

豊かな里山の自然と、遍路遺跡などの価値を高める活動を推進

松山郊外にある里山ゾーン。昔ながらの遍路道に沿って四国霊場の札所をはじめ、遍路墓や石の道標、ハツ塚群集古墳など遍路遺跡が点在します。地元住民の手により、旧遍路宿・坂本屋のほか、大正時代の大黒座も芝居小屋としてよみがえり、遍路の里として注目されています。



[取組例・特徴]

- 旧遍路・宿坂本屋や国指定重要文化財渡部家住宅の利活用やお遍路さんへのお接待
- フィールドミュージアムアカデミー久谷カレッジ(大学生と連携した地域資源の調査・周知・活用)

松山市地域振興構想策定懇話会

(目的)

松山市地域振興構想の策定に当たって、外部有識者をはじめ、地域の代表者、公募市民等から広く意見を聴くため、懇話会を開催しました。

(期間)

令和5年9月～令和7年3月(計5回)

(内容)

懇話会では、地域の特性や課題をはじめ、今後地域で取り組んでいくべき事項などについてご意見をいただいた上で、松山市地域振興構想への反映状況等を報告しました。

(開催状況)

回	開催日	場所	内容
1	令和5年9月27日(水)	坂の上の雲ミュージアム会議室	・参加者紹介 ・構想策定の経緯 ・まちづくりについての意見交換 ・今後の予定について
2	令和6年3月26日(火)	市役所別館6階 第1委員会室	・地域カルテについて ・地域ヒアリングの結果について ・構想の構成イメージについて
3	令和6年8月27日(火)	市役所別館6階 第1委員会室	・アンケート、高校生ワークショップの結果報告 ・行動指針について ・今後のまちづくりの方向性について
4	令和6年12月26日(木)	市役所別館6階 第1委員会室	・松山市地域振興構想案について ・パブリックコメントについて
5	令和7年3月16日(日)	松山市男女共同参画 推進センター5階 大会議室	・松山市地域振興構想の公表について

懇話会構成員名簿

(五十音順、敬称略)

大西 優太郎	(公募:愛媛大学学生)
門田 式宏 ^{※2}	(風早まちづくりネットワーク 代表)
忽那 恵雄 ^{※2}	(中島総代会 会長)
瀬村 要二郎	(三津浜地区まちづくり協議会 会長)
高村 有里	(公募:松山大学学生)
檀 裕也	(松山大学副学長 経営学部 教授)
寺谷 亮司	(愛媛大学社会共創学部 教授)
土井 太陽	(公募:松山大学学生)
中川 保	(興居島各町連絡協議会 会長)
野中 昭秀	(久谷地区まちづくり協議会 会長)
橋村 富士雄 ^{※1}	(中島総代会 会長)
水木 悦二	(NPO法人アクティブボランティア 21 マネージャー)
森田 隆志 ^{※1}	(風早まちづくりネットワーク 代表)
山本 奈穂	(公募:松山大学学生)

()内は、懇話会構成員就任当時

※1 会長・代表交代により、第2回までの参加

※2 会長・代表就任により、第3回からの参加

まちづくりワークショップ(地域ヒアリング)

(目的)

松山市地域振興構想の策定に当たって、忽那諸島・風早・三津浜・久谷の各地域住民を対象にワークショップを実施し、その結果を集約・分析した上で、構想を検討する際の参考としました。

(開催状況)

地域	開催日	場所	参加者人数
久谷	令和5年12月7日(木)	荏原公民館大ホール	23名
風早	令和6年1月30日(火)	北条コミュニティセンター ふれあいホール	20名
忽那諸島 (中島)	令和6年2月25日(日)	中島総合文化センター 大会議室	14名
忽那諸島 (興居島)	令和6年2月26日(月)	泊公民館中会議室	21名
三津浜	令和6年2月27日(火)	松山市地域交流センター 大会議室	25名

テーマ ～地域の賑わいづくりや活性化のために、必要なことをみんなで考えよう～

- ・地域の自慢できるところ
- ・地域の頑張っている人や団体、その内容
- ・地域で暮らしていく上での課題や不安
- ・地域が賑わうとは、どんな状態か
- ・賑わいづくりのために実施すべきまちづくり

地域のまちづくりに関する地区住民アンケート

(目的)

サブセンターゾーンのまちづくりに対する住民の考えを聴き、これまでの取組を検証するとともに、今後の地域のまちづくりにいかすためにアンケート調査を実施しました。

(期間)

令和6年3月13日(水)～4月10日(水)

(対象)

・令和6年2月1日現在で18歳以上の住民

・男女各1,000人(合計2,000人)

・基準地区のうち、以下の地区 ※以下、4つの地域に異なる調査票を送付

忽那諸島: 神和、睦野、東中島、西中島、由良、泊 **風早**: 浅海、難波、立岩、正岡、北条、河野、粟井

三津浜: 三津浜、高浜

久谷: 荏原、坂本

(有効回答数=N)

731件(36.6%) ※うち郵送回収550件(75.2%) うちインターネット回収181件(24.8%)

年齢別内訳

(上段:件数)

20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
86 (11.8%)	89 (12.2%)	117 (16.0%)	115 (15.7%)	151 (20.7%)	171 (23.4%)	2 (0.3%)

地域別内訳

※()内の%は、地域ごとの回収率(地域別有効回答数(n)/地域別調査票送付数) (上段:件数)

忽那諸島	風早	三津浜	久谷
138 (43.1%)	225 (31.3%)	172 (35.8%)	196 (40.8%)

【共通項目】

○職業

(上段:件数)

会社員・公務員	自営業(農林水産業)	自営業(その他)	パート・アルバイト	学生
214 (29.3%)	66 (9.0%)	49 (6.7%)	130 (17.8%)	41 (5.6%)
専業主婦・主夫	無職	その他	無回答	N=731
87 (11.9%)	125 (17.1%)	17 (2.3%)	2 (0.3%)	

○居住年数

(上段:件数)

1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満
15 (2.1%)	51 (7.0%)	56 (7.7%)	133 (18.2%)
20年以上30年未満	30年以上	無回答	N=731
122 (16.7%)	352 (48.2%)	2 (0.3%)	

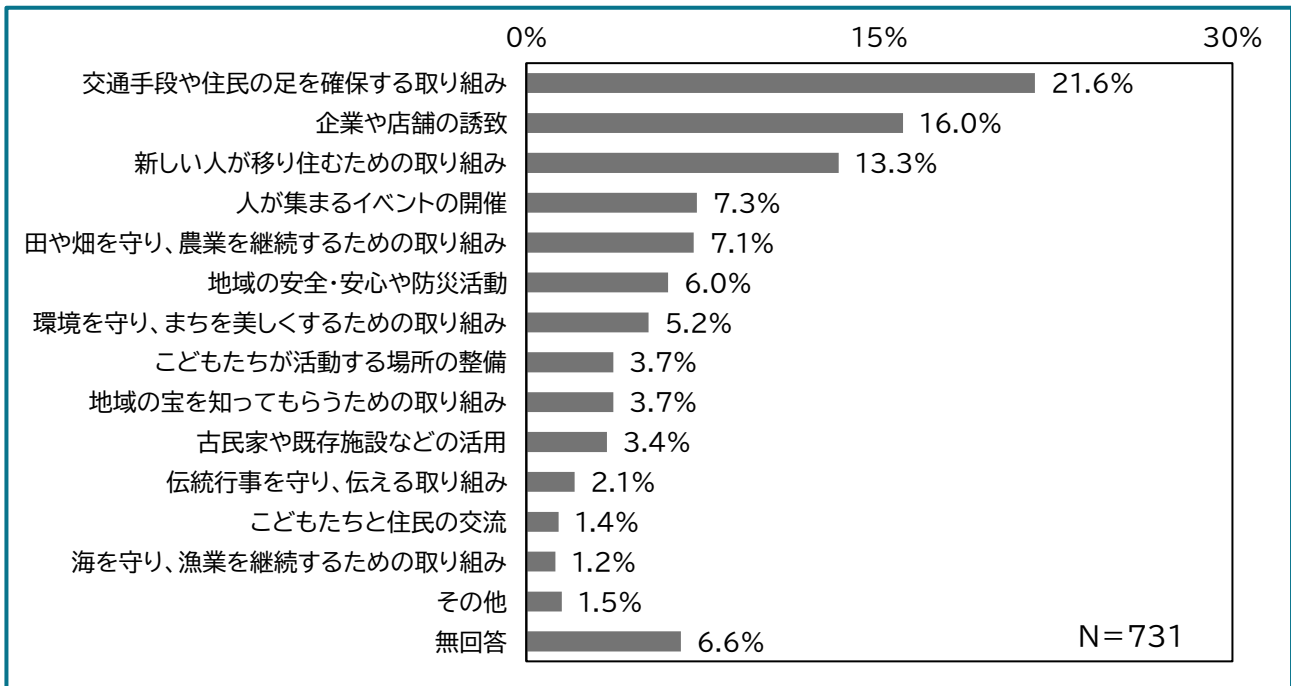
○今後の居留意向

(上段:件数)

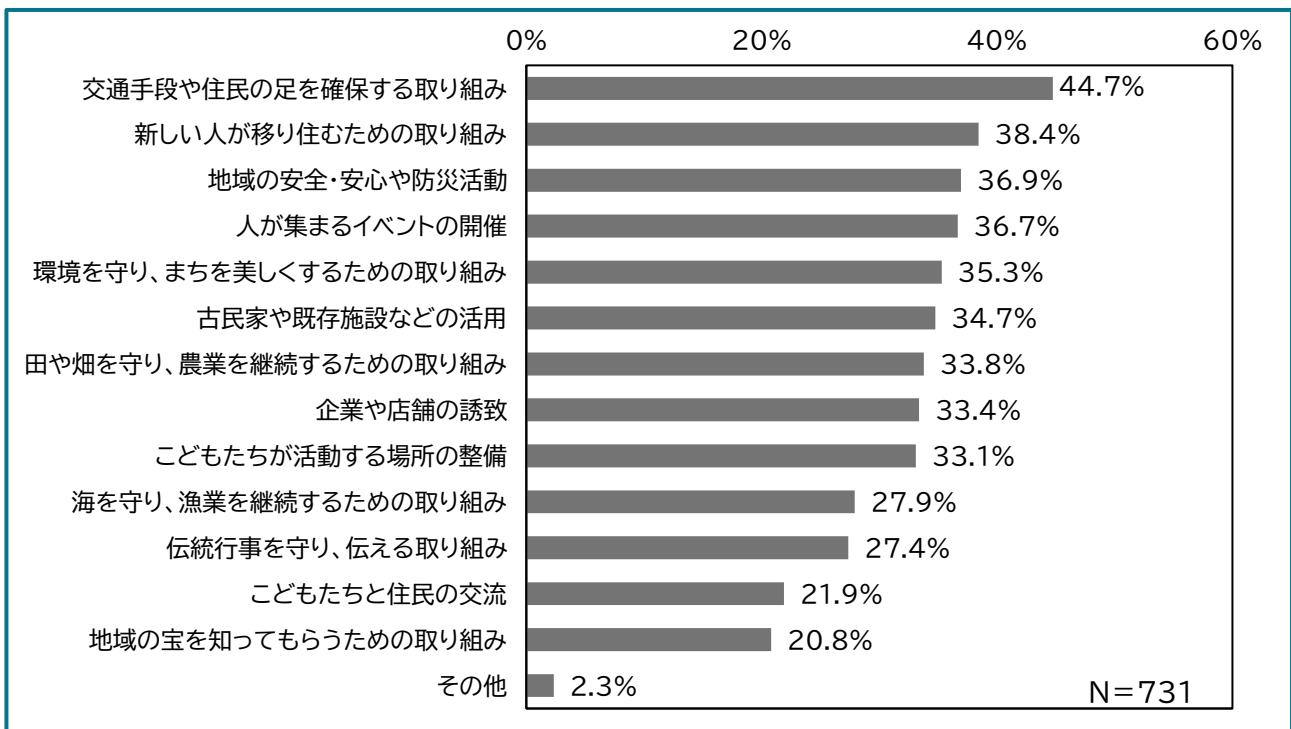
ずっと 住み続けたい	どちらかといえば 住み続けたい	どちらとも いえない	どちらかといえば 住み続けたくない	住み続けたくない	無回答
275 (37.6%)	225 (30.8%)	154 (21.1%)	48 (6.6%)	25 (3.4%)	4 (0.5%)

N=731

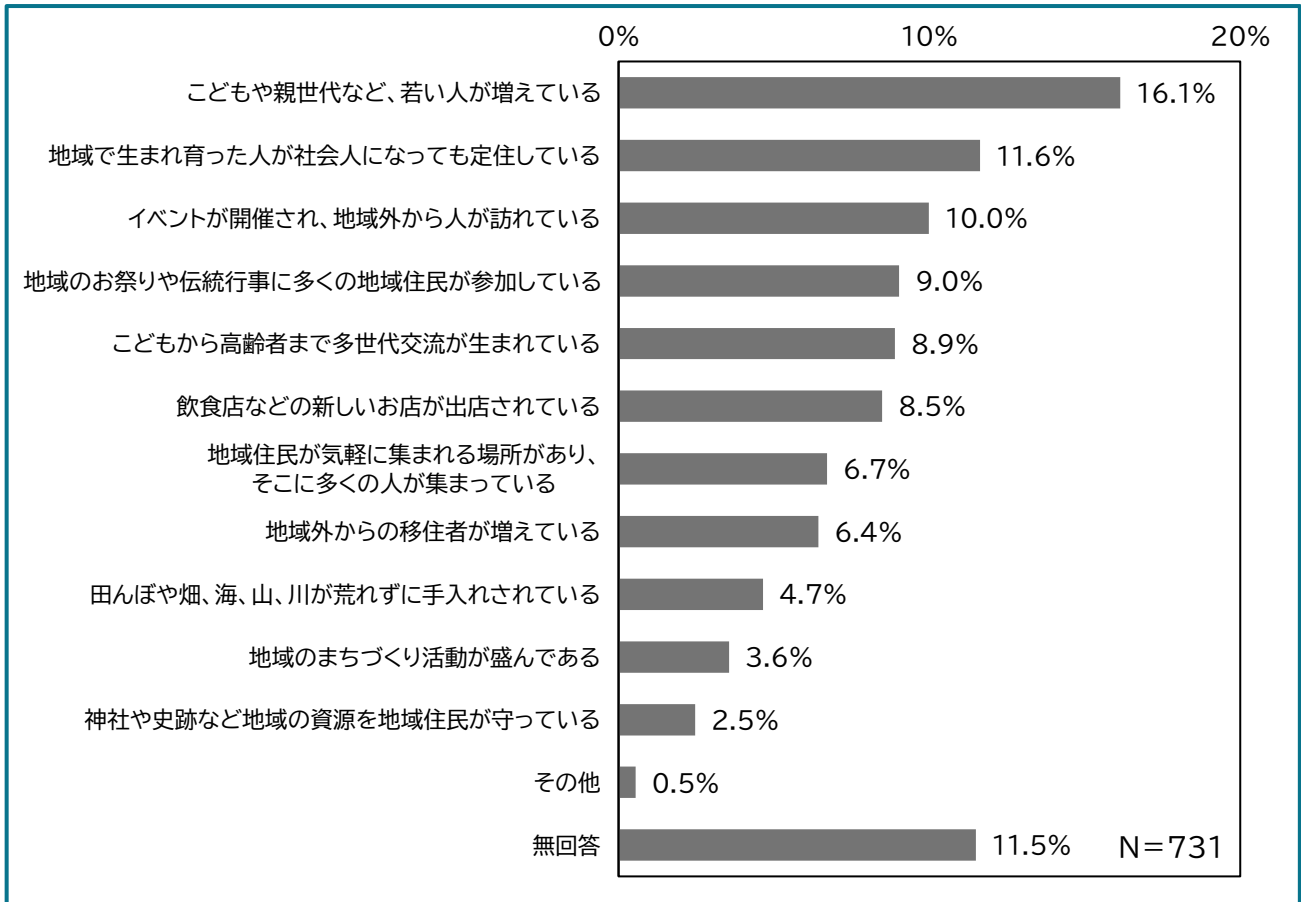
○どのような取り組みを進めていけば良いと思うか(最も重要と思うもの、○は1つ)



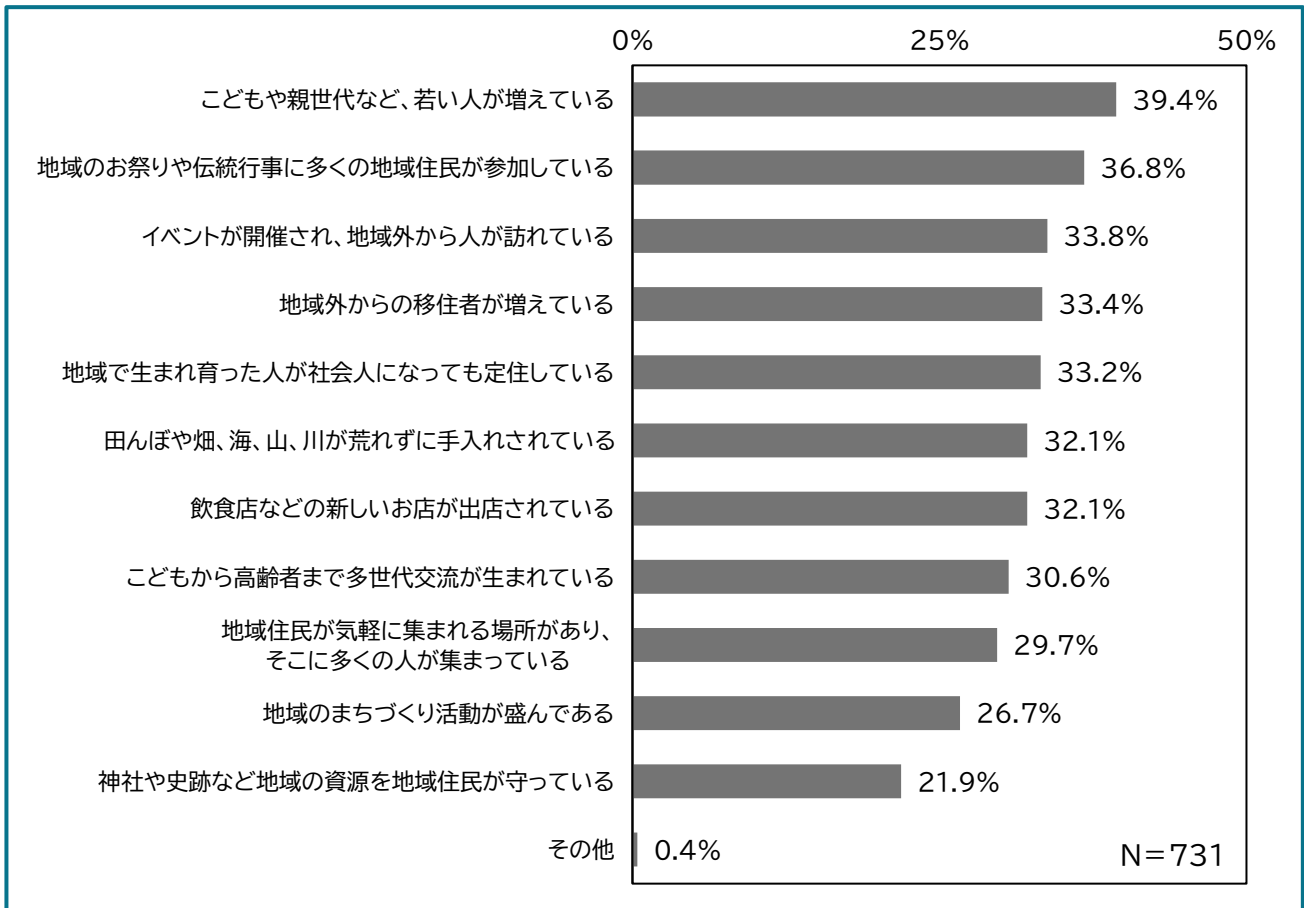
○どのような取り組みを進めていけば良いと思うか(良いと思うもの、○はいくつでも)



○「地域がにぎわう」とは、どのような状況だと思うか(最も当てはまるもの、○は1つ)



○「地域がにぎわう」とは、どのような状況だと思うか(当てはまるもの、○はいくつでも)



○地域のイメージ

凡例 5:ある 4:どちらかといえばある 3:どちらともいえない 2:どちらかといえない 1:ない

忽那諸島 n=138

(上段:件数)

イメージ	5	4	3	2	1	無回答
柑橘などの農産物、海産物が豊か	88 (63.8%)	40 (29.0%)	5 (3.6%)	3 (2.2%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)
やっこ振りや船踊りなどの伝統や文化が傳承されている	36 (26.1%)	34 (24.6%)	28 (20.3%)	17 (12.3%)	21 (15.2%)	2 (1.4%)
瀬戸内の多島美など、海や山などの自然が豊か	84 (60.9%)	37 (26.8%)	15 (10.9%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)
市民や訪れた人の第二のふるさとになっている	9 (6.5%)	19 (13.8%)	60 (43.5%)	29 (21.0%)	20 (14.5%)	1 (0.7%)
移住者が増えてきている	22 (15.9%)	53 (38.4%)	34 (24.6%)	16 (11.6%)	13 (9.4%)	0 (0.0%)
お接待の文化が残っている	12 (8.7%)	39 (28.3%)	50 (36.2%)	20 (14.5%)	16 (11.6%)	1 (0.7%)

風早 n=225

(上段:件数)

イメージ	5	4	3	2	1	無回答
海や山など自然が豊か	164 (72.9%)	46 (20.4%)	14 (6.2%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)
公園やスポーツセンターなど、こどもの遊び場や公共施設がそろっている	29 (12.9%)	69 (30.7%)	68 (30.2%)	49 (21.8%)	9 (4.0%)	1 (0.4%)
秋祭りや權練りなど伝統行事が傳承されている	95 (42.2%)	80 (35.6%)	38 (16.9%)	9 (4.0%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)
昭和のにぎわいが残るレトロなまち	12 (5.3%)	21 (9.3%)	88 (39.1%)	70 (31.1%)	34 (15.1%)	0 (0.0%)
河野氏ゆかりの地で、史跡や文化が残っている	36 (16.0%)	69 (30.7%)	75 (33.3%)	32 (14.2%)	12 (5.3%)	1 (0.4%)
7地区それぞれの魅力があつまったまち	16 (7.1%)	33 (14.7%)	100 (44.4%)	53 (23.6%)	22 (9.8%)	1 (0.4%)

三津浜 n=172

(上段:件数)

イメージ	5	4	3	2	1	無回答
三津浜焼きなど地域固有の食文化が残る	61 (35.5%)	60 (34.9%)	29 (16.9%)	17 (9.9%)	4 (2.3%)	1 (0.6%)
瀬戸内の魚介が水揚げされる漁業のまち	46 (26.7%)	72 (41.9%)	30 (17.4%)	14 (8.1%)	9 (5.2%)	1 (0.6%)
おしゃれなお店などが増えてきている	17 (9.9%)	44 (25.6%)	51 (29.7%)	36 (20.9%)	22 (12.8%)	2 (1.2%)
近代的建築物や町家等の風情ある町並みが残る	25 (14.5%)	58 (33.7%)	57 (33.1%)	23 (13.4%)	9 (5.2%)	0 (0.0%)
記念碑や句碑など歴史文化を感じるものが多い	23 (13.4%)	55 (32.0%)	53 (30.8%)	31 (18.0%)	10 (5.8%)	0 (0.0%)

久谷 n=196

(上段:件数)

イメージ	5	4	3	2	1	無回答
山や川など自然に囲まれた里山	116 (59.2%)	49 (25.0%)	18 (9.2%)	8 (4.1%)	2 (1.0%)	3 (1.0%)
米や野菜、果物など農作物が豊か	65 (33.2%)	73 (37.2%)	39 (19.9%)	12 (6.1%)	4 (2.0%)	3 (1.5%)
お遍路さんにまつわるお寺や文化遺跡が多い	99 (50.5%)	61 (31.1%)	24 (12.2%)	5 (2.6%)	2 (1.0%)	5 (2.6%)
おせったい文化が根付いている	42 (21.4%)	46 (23.5%)	55 (28.1%)	35 (17.9%)	13 (6.6%)	5 (2.6%)
たぬき伝説など、伝説・伝承が多い	47 (24.0%)	48 (24.5%)	48 (24.5%)	34 (17.3%)	14 (7.1%)	5 (2.6%)

○これまでの地域振興の施策満足度

凡例 5:満足 4:やや満足 3:普通 2:やや不満 1:不満 0:判断できない

忽那諸島:愛ランド里島構想 n=138

(上段:件数)

基本政策1	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
①活力ある農水産業の 振興	4 (2.9%)	20 (14.5%)	54 (39.1%)	19 (13.8%)	11 (8.0%)	30 (21.7%)	0 (0.0%)
②地域資源を活かした 産業の振興	4 (2.9%)	31 (22.5%)	54 (39.1%)	15 (10.9%)	4 (2.9%)	29 (21.0%)	1 (0.7%)
③産業を担う人づくり	4 (2.9%)	20 (14.5%)	48 (34.8%)	21 (15.2%)	14 (10.1%)	31 (22.5%)	0 (0.0%)

基本政策2	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
④交通ネットワークの構築	2 (1.4%)	20 (14.5%)	42 (30.4%)	29 (21.0%)	25 (18.1%)	16 (11.6%)	4 (2.9%)
⑤安全・安心のまちづくり	4 (2.9%)	24 (17.4%)	58 (42.0%)	25 (18.1%)	12 (8.7%)	13 (9.4%)	2 (1.4%)
⑥環境と調和したまちづ くり	4 (2.9%)	19 (13.8%)	45 (32.6%)	23 (16.7%)	10 (7.2%)	35 (25.4%)	2 (1.4%)
⑦快適で人にやさしい まちづくり	3 (2.2%)	22 (15.9%)	56 (40.6%)	14 (10.1%)	12 (8.7%)	29 (21.0%)	2 (1.4%)
⑧情報化社会に対応した まちづくり	4 (2.9%)	9 (6.5%)	39 (28.3%)	25 (18.1%)	21 (15.2%)	38 (27.5%)	2 (1.4%)

基本政策3	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
⑨交流・連携のまちづくり	4 (2.9%)	23 (16.7%)	59 (42.8%)	15 (10.9%)	7 (5.1%)	28 (20.3%)	2 (1.4%)
⑩島びとが主体となった まちづくり	1 (0.7%)	14 (10.1%)	56 (40.6%)	21 (15.2%)	5 (3.6%)	39 (28.3%)	2 (1.4%)
⑪未利用施設を活用した まちづくり	9 (6.5%)	32 (23.2%)	43 (31.2%)	22 (15.9%)	5 (3.6%)	25 (18.1%)	2 (1.4%)
⑫参画と協働による人権 が尊重されるまちづくり	2 (1.4%)	7 (5.1%)	63 (45.7%)	11 (8.0%)	8 (5.8%)	43 (31.2%)	4 (2.9%)

基本政策4	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
⑬明日を担う人材の育成	19 (13.8%)	40 (29.0%)	43 (31.2%)	7 (5.1%)	10 (7.2%)	17 (12.3%)	2 (1.4%)
⑭生涯現役で過ごすまちづくり	3 (2.2%)	19 (13.8%)	63 (45.7%)	11 (8.0%)	6 (4.3%)	33 (23.9%)	3 (2.2%)
⑮里島の歴史・文化を活かしたまちづくり	3 (2.2%)	14 (10.1%)	66 (47.8%)	13 (9.4%)	4 (2.9%)	36 (26.1%)	2 (1.4%)
⑯スポーツをととした活力あるまちづくり	14 (10.1%)	40 (29.0%)	43 (31.2%)	6 (4.3%)	3 (2.2%)	29 (21.0%)	3 (2.2%)

基本政策5	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
⑰健康づくりの推進と医療体制の維持確保	13 (9.4%)	42 (30.4%)	47 (34.1%)	19 (13.8%)	10 (7.2%)	6 (4.3%)	1 (0.7%)
⑱未来を拓く子どもたちの育成	6 (4.3%)	25 (18.1%)	48 (34.8%)	19 (13.8%)	7 (5.1%)	31 (22.5%)	2 (1.4%)
⑲支え合う福祉のまちづくり	5 (3.6%)	14 (10.1%)	56 (40.6%)	12 (8.7%)	12 (8.7%)	37 (26.8%)	2 (1.4%)

風早:風早レトロタウン構想促進 n=225

(上段:件数)

中核エリア -鹿島の活性化	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
資源活用	9 (4.0%)	32 (14.2%)	94 (41.8%)	25 (11.1%)	15 (6.7%)	48 (21.3%)	2 (0.9%)
環境整備	14 (6.2%)	49 (21.8%)	77 (34.2%)	34 (15.1%)	10 (4.4%)	40 (17.8%)	1 (0.4%)
情報発信	5 (2.2%)	25 (11.1%)	101 (44.9%)	26 (11.6%)	12 (5.3%)	55 (24.4%)	1 (0.4%)
交流促進	18 (8.0%)	55 (24.4%)	80 (35.6%)	30 (13.3%)	7 (3.1%)	34 (15.1%)	1 (0.4%)
協働促進	8 (3.6%)	26 (11.6%)	99 (44.0%)	19 (8.4%)	11 (4.9%)	61 (27.1%)	1 (0.4%)

中核エリア -駅前通りの活性化	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
資源活用	10 (4.4%)	47 (20.9%)	83 (36.9%)	33 (14.7%)	18 (8.0%)	31 (13.8%)	3 (1.3%)
環境整備	4 (1.8%)	31 (13.8%)	103 (45.8%)	33 (14.7%)	15 (6.7%)	36 (16.0%)	3 (1.3%)
情報発信	5 (2.2%)	21 (9.3%)	98 (43.6%)	35 (15.6%)	21 (9.3%)	42 (18.7%)	3 (1.3%)
交流促進	11 (4.9%)	45 (20.0%)	74 (32.9%)	34 (15.1%)	13 (5.8%)	45 (20.0%)	3 (1.3%)
協働促進	4 (1.8%)	17 (7.6%)	109 (48.4%)	14 (6.2%)	11 (4.9%)	66 (29.3%)	4 (1.8%)

広域エリア	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
資源活用	8 (3.6%)	32 (14.2%)	85 (37.8%)	31 (13.8%)	13 (5.8%)	52 (23.1%)	4 (1.8%)
環境整備	13 (5.8%)	59 (26.2%)	71 (31.6%)	25 (11.1%)	15 (6.7%)	34 (15.1%)	8 (3.6%)
情報発信	7 (3.1%)	31 (13.8%)	84 (37.3%)	25 (11.1%)	16 (7.1%)	53 (23.6%)	9 (4.0%)
交流促進	8 (3.6%)	33 (14.7%)	100 (44.4%)	20 (8.9%)	12 (5.3%)	42 (18.7%)	10 (4.4%)
協働促進	7 (3.1%)	19 (8.4%)	97 (43.1%)	19 (8.4%)	11 (4.9%)	61 (27.1%)	11 (4.9%)

三津浜:三津浜地区活性化計画 n=172

(上段:件数)

活性化方針1	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
方策1 町家バンクの推進 と運営支援	18 (10.5%)	49 (28.5%)	55 (32.0%)	8 (4.7%)	4 (2.3%)	35 (20.3%)	3 (1.7%)
方策2 民間主導の景観 まちづくりに対する支援	10 (5.8%)	37 (21.5%)	65 (37.8%)	14 (8.1%)	8 (4.7%)	35 (20.3%)	3 (1.7%)
方策3 にぎわい創出イベ ント事業の支援	13 (7.6%)	39 (22.7%)	60 (34.9%)	11 (6.4%)	5 (2.9%)	41 (23.8%)	3 (1.7%)

活性化方針2	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
方策4 三津浜食文化の ブランド化の推進	26 (15.1%)	53 (30.8%)	62 (36.0%)	8 (4.7%)	5 (2.9%)	13 (7.6%)	5 (2.9%)
方策5 地域のまちづくり と一体となった戦略的な 誘客施設の検討	10 (5.8%)	57 (33.1%)	59 (34.3%)	10 (5.8%)	7 (4.1%)	25 (14.5%)	4 (2.3%)
方策6 港周辺の憩いの場 づくりの検討	3 (1.7%)	20 (11.6%)	74 (43.0%)	15 (8.7%)	9 (5.2%)	48 (27.9%)	3 (1.7%)

活性化方針3	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	判断 できない	無回答
方策7 中間支援組織の 構築支援	9 (5.2%)	44 (25.6%)	62 (36.0%)	8 (4.7%)	5 (2.9%)	39 (22.7%)	5 (2.9%)
方策8 三津浜地区プロモ ーション活動の推進	10 (5.8%)	41 (23.8%)	65 (37.8%)	15 (8.7%)	4 (2.3%)	32 (18.6%)	5 (2.9%)

地域の魅力発信！ワークショップ

(目的)

松山市地域振興構想の策定に当たって、公募市民を対象に、「地域の魅力を発信し、特色あるまちづくりを周知するための方法の検討」をテーマにしたワークショップを実施しました。地域の魅力やまちづくりに関心を持ってもらうために必要な取組や、地域振興構想をまちづくりに活用してもらえるような冊子とするための方法などを話し合っていました。

(開催状況)

回	開催日	場所	参加者人数
第1回	令和6年8月18日(日)	市役所本館11階大会議室	17名
第2回	令和6年9月29日(日)	市役所本館11階大会議室	25名

(第1回) テーマ ～地域の魅力を伝えるプロジェクトを考えよう！～

各地域の賑わいづくりを推進していくために、地域の魅力をどのように発信していくか、どのように広げていくかを考えました。

(第2回) テーマ ～地域振興構想をみんなに親んでもらえる方法を考えよう！～

各地域のまちづくりを一体となって推進していくために、地域振興構想を多くの方に広められる・親んでもらえるような冊子の内容を考えました。

■伝えたい情報・紹介したい内容(第1回、第2回総括)		
<p>観光・体験・イベント</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域のイベント・祭りの情報 ○おすすめのスポット ○釣りスポット など 	<p>食・名産・店舗</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の名物 ○おいしい飲食店・カフェ ○地元産品にこだわる店 など 	<p>地域の風景・景観</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然豊かな場所や、古き良き町並み ○島の暮らし ○SNS映えしそうな絶景 など
<p>人・取組・住民の声</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の取組、地域で活躍する人や住民の声 ○学生と地域のコラボ など 	<p>生活利便性</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育てのしやすさ ○コンパクトなまちであること ○市内電車等のアクセス など 	<p>地域の歴史・文化</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の歴史・魅力 ○お遍路さんのお接待文化 ○四国八十八ヶ所 など
<p>移住者向けの情報</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○移住体験ができること ○移住者の声や視点 など 	<p>産業・雇用</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○仕事の情報 ○地場の企業の紹介 など 	<p>行政の取組</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行政が取り組んでいること、今後の取組 など

■地域の情報発信の方法や展開方法(第1回総括)		
<p>イベントの実施</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験型イベント ○大規模イベント ○市外でのイベント など 	<p>SNS等の活用</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域のPR動画の作成 ○SNSでハッシュタグをつけて投稿・宣伝 など 	<p>インフルエンサーの活用</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○有名人を呼ぶ ○愛媛県出身の有名人やインフルエンサーを活用する など
<p>周遊のしかけづくり</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スタンプラリーの開催 ○レンタサイクルによる周遊促進 など 	<p>まちづくりへの参加や周知</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学生が参加して周知する ○学生が同年代や上の世代に発信する など 	

■地域振興構想の広め方・展開方法(第2回総括)		
<p>教育機関等での活用・周知</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育園・幼稚園・学校、大学等での配布 ○中学校の総合学習の教材 ○自由研究でも使える など 	<p>主要施設への配置</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○駅の人が集まる場所 ○バス・電車の中 ○お店や公民館、行政機関(市役所、県庁) など 	<p>SNS・HP等での周知</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○SNSとの連携 ○HPでダウンロード可能にしておく など
<p>ラジオ等での周知</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ラジオやCMで宣伝 など 	<p>イベントでの配布</p> <p>[主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イベントで配布 ○スタンプラリーで使う など 	

用語集

用語	説明
【あ】	
愛ランド里島構想	島びとや行政がまちづくりを進める上での重要な指針として、島しょ部の持続的な発展と活性化を目的に、平成24年3月に策定した構想。
ウェルビーイング	近年注目されている、肉体的にも精神的にも健康で、社会的にも満たされた状態のこと。
お試し移住施設	興居島の「ハイムインゼルごごしま」と中島の「神浦定住促進施設」の2施設のことを指す。島しょ部での生活を体験してもらい、島しょ部への定住につなげていくことを目的としている。
【か】	
風早まちづくりネットワーク	前身の風早活性化協議会を再編成し、北条地域のまちづくり協議会や公民館、各区長会長が主体となって令和5年5月に設立された組織。
風早レトロタウン構想	北条地域の魅力ある地域資源を磨くとともに、地域が抱える課題を解決しながら北条地域の活性化を図ることを目的に、平成25年3月に策定された構想。
関係人口	移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、地域と多様に関わる人々のこと。
忽那(くつな)諸島	有人9島(中島、興居島、津和地島、怒和島、二神島、釣島、野忽那島、睦月島、安居島)を含む大小30以上の島々で構成される諸島。
【さ】	
『坂の上の雲』	司馬遼太郎さんが40代のほとんどをかけて完成させた小説。物語は、秋山好古・真之兄弟、正岡子規の3人の人生をたどりながら近代国家の仲間入りをしようとした明治の日本を描いている。
シェアショップ	三津浜地区内の古民家を、複数の事業者が入居できるように改修・整備する事業。
シビックプライド	地域に対する市民の愛着や誇りのこと。
【た】	
第7次松山市総合計画	松山市の将来あるべき姿を描き、その実現をめざすために、まちづくりの方向性を示す市の最上位計画。
地域の宝みがきサポート事業	地域にある宝というべき地域資源の利活用や情報発信を目的とした周知啓発のための整備、付帯施設・設備の整備等を行う場合に、その整備費用を補助する事業。

用語	説明
【は】	
ほしふるテラス姫ヶ浜	中島にある、瀬戸内の多島美を望む海岸に面した宿泊施設。令和2年にリニューアルオープンし、海水浴やBBQを楽しむことができる。
【ま】	
まちづくり協議会	地域の各団体やNPO、企業等の多様な市民が集まるネットワーク型の住民自治組織のこと。
まつやま里島ツーリズム連絡協議会	平成23年4月に設立された組織で、島しょ部での体験メニュー「里島めぐり」「松山島博覧会」で生まれた体験メニュー等を継続して充実させるとともに、体験等を通して交流を促進することにより、物産品の消費拡大を推進して地域産業の振興を図り、地域の活性化をめざしている。
松山島博覧会	平成22年に開催した事業。島固有の資源を積極的に情報発信し、島の魅力を伝えるとともに、体験してもらうための様々な催しを行った。
三津浜地区活性化計画	三津浜地区の魅力ある資源を活用するとともに、地域の取組を尊重しながら、賑わいの創出や交流人口を拡大するなど、まちの再生や活性化を図ることを目的に、平成26年7月に策定された計画。

松山市地域振興構想

令和7年3月策定

発行：松山市坂の上の雲まちづくり部まちづくり推進課

〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7番地2

TEL:089-948-6996 FAX:089-934-1821



この冊子の印刷における電力の100%が、
松山市の太陽光発電施設で発電した
グリーン電力で賄われています。
使用許諾番号 No.00182